

報告事項ケ

平成27年度鳥取県教育研究大会の開催概要について

平成27年度鳥取県教育研究大会の開催概要について、別紙のとおり報告します。

平成27年12月24日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成27年度鳥取県教育研究大会の概要について

高等学校課

1 趣旨

鳥取県の「教育に関する大綱」に掲げる取組方針を踏まえ、基調講演、県教育委員会事務局報告、各校種における実践事例の発表等とおして、県内の幼児児童生徒の学びの質の向上、豊かな人間性や社会性の育成及び安全で、安心できる園（所）・学校づくりの推進を図る。

2 概要（※詳細は別添資料参照）

(1) 日 時 平成27年12月10日（木） 午前10時から午後4時30分まで

(2) 会 場 鳥取県立倉吉未来中心

(3) 参加者数 324名（教育関係者等、昨年295名）

(4) 講 演 「新学校時代に求められる学校力・教師力」
～教育改革の動向を踏まえて～

講 師 國學院大学 教授 杉田 洋 氏
(前文部科学省 視学官)

(5) 全体会 鳥取県の「教育に関する大綱」について
鳥取県の取組と次年度の方向性について

(6) 分科会

<分科会Ⅰ>

1 「自らが学び続ける児童・生徒の育成」

～西中校区の小中連携の取り組みから～ 倉吉市立西中学校

2 「幼児教育・保育から小学校教育への円滑な接続」

～小学校教諭の保育園における長期社会体験の取組から～

鳥取市立美保小学校、鳥取市立美保保育所

3 「知的総合力を身につけたグローバルリーダーの育成」

～SGHの取組とICTを使ったアクティブラーニングの実際～ 県立鳥取西高等学校

「タブレット端末を活用した学び合いのある授業づくり」 県立智頭農林高等学校

講評 中部教育局 藤原課長補佐、小中学校課 大高係長、県教育センター 千代西尾課長補佐

<分科会Ⅱ>

1 「千代南中学校区 学級づくり・人間関係づくり」

鳥取市立千代南中学校、鳥取市立用瀬小学校、鳥取市立佐治小学校

2 「琴浦町の特別支援教育体制整備と連携の推進」

～琴浦町連携チームによる取組から～ 琴浦町教育委員会

3 「生徒に『自治の力を育む』取り組み」 米子市立福米中学校

講評 東部教育局 吉川課長補佐、特別支援教育課 加藤係長、西部教育局 安次係長

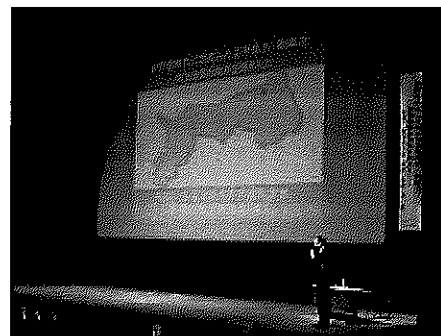
(7) とっとりの教育パネル展 県内幼保・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会の県教育委員会事業に関連する取組39枚を展示

3 成果

○激しく変化するこれからの社会の中で、教員個々がふるさと鳥取の教育の未来像について心に描きながら、志をひとつにすることで、「学校力・教師力」を高め、次世代を担う子どもたちをしっかりと育てることの重要性を共通理解することができた。

○各分科会では、各校種における実践事例の発表をおして、児童生徒の学びの質を高め、豊かな人間性や社会性を育む学校づくりや校種連携の重要性を再確認することができた。

○初の試みとして実施した「とっとりの教育パネル展」に多数の来場者が立ち寄り、多校種・多分野の先進事例を全県に普及することができた。



平成27年度鳥取県 教育研究大会

平成27年12月10日(木)
倉吉未来中心大ホール他

9:30～10:00 受付

10:00～10:20 開会行事

10:20～11:50 講演

「新学校時代に求められる学校力・教師力」

～教育改革の動向を踏まえて～

國學院大学 教授 杉田 洋 氏

鳥取の今が分かる未来が見える

12:00～12:30 全体会 報告

I 鳥取県の「教育に関する大綱」について

II 鳥取県の取組と次年度の方向性について

III 分科会ガイダンス

13:30～16:20 分科会 I II

(午後の内容詳細は大会要項を参照ください)

16:20～16:30 閉会

とっとり教育パネル展同時開催

鳥取県教育委員会

平成27年度鳥取県教育研究大会開催要項

1 趣 旨

県教育委員会では、学ぶ力や豊かな人間性と社会性の育成を図るため、各学校の取組への支援を進めている。

本研究大会では、鳥取県の「教育に関する大綱」に掲げる取組方針を踏まえ、基調講演、県教育委員会事務局報告、各校種における実践事例の発表等をとおして、県内の幼児児童生徒の学びの質の向上、豊かな人間性や社会性の育成及び安全で、安心できる園(所)・学校づくりの推進を図る。

2 主 催 鳥取県教育委員会

3 日 時 平成27年12月10日(木) 午前10時から午後4時30分まで

4 会 場 鳥取県立倉吉未来中心 大ホール 他
倉吉市駄経寺町212-5 (倉吉パークスクエア内)

5 日 程

9:30	10:00	10:20	11:50	12:00	12:30	13:30	16:20	16:30
受 付	開 会 行 事	全体会(講演)	休 憩	全体会(報告)	休 憩・ 移 動	分科会		分科会毎 に閉会
		演題 「新学校時代に求められる学校力・教師力」 ～教育改革の動向を踏まえて～ 國學院大学 教授 杉田 洋 氏		鳥取県の取組について 詳細は6を参照		分科会Ⅰ 分科会Ⅱ 詳細は6を参照		

※アトリウムにて、とっとりの教育パネル展を同時開催

6 全体会及び分科会

【全体会】10:00～12:30 (会場：倉吉未来中心大ホール)

時 間	内 容
9:30～10:00	【受付】
10:00～10:20	【開会行事】 (1) 開会 (2) 主催者あいさつ (3) 趣旨説明
10:20～11:50	【基調講演】 「新学校時代に求められる学校力・教師力」 ～教育改革の動向を踏まえて～ 講師 國學院大学 教授 杉田 洋 氏
11:50～12:00	休憩
12:00～12:30	【報告】 (1) 鳥取県の「教育に関する大綱」について (2) 鳥取県の取組と次年度の方向性について (3) 分科会ガイダンス

【分科会】 13:30～16:30（会場：倉吉未来中心大ホール、セミナールーム3）

		内 容	
		分科会Ⅰ	分科会Ⅱ
第一	13:30 ～14:10	○自らが学び続ける児童・生徒の育成 ～西中校区の小中連携の取組から～ ・倉吉市立西中学校区 ステップアップ推進協議会	○千代南中学校区 学級づくり・人間関係づくり ・鳥取市立千代南中学校 ・鳥取市立用瀬小学校 ・鳥取市立佐治小学校
	14:10 ～14:25	休 憩 ・ 移 動	休 憩 ・ 移 動
第二	14:25 ～15:05	○幼児教育・保育から小学校教育への円滑な接続 ～小学校教諭の保育園における長期社会体験研修の取組から～ ・鳥取市立美保小学校 ・鳥取市立美保保育園	○琴浦町の特別支援教育体制整備と連携の推進 ～琴浦町連携チームによる取組から～ ・琴浦町教育委員会
	15:05 ～15:20	休 憩 ・ 移 動	休 憩 ・ 移 動
第三	15:20 ～16:00	○知的総合力を身につけたグローバルリーダーの育成 ～SGHの取組とICTを使ったアクティブラーニングの実際～ ・県立鳥取西高等学校 ○タブレット端末を活用した学びあいのある授業づくり ・県立智頭農林高等学校	○生徒に「自治の力を育む」取組 ・米子市立福米中学校
	16:00 ～16:20	講 評	講 評
	16:20 ～16:30	諸 連 絡 ・ 閉 会	諸 連 絡 ・ 閉 会

7 参加対象者

参加を希望する幼稚園・保育園（所）・小・中・高・特別支援学校の教職員、市町村教育委員会等の行政関係者（教育委員、指導主事等）及び一般県民等

8 参加申込み

参加希望者は別紙「平成27年度鳥取県教育研究大会参加申込用紙」に必要事項を記入の上、次のとおり申し込んでください。

園(所) 学校等	申込み先、申込み方法及び申込み締切り
<ul style="list-style-type: none"> ○市町村(学校組合)立の学校及び幼稚園 ○市町村(学校組合)教育委員会関係者 	<p>【申込み先】 各市町村(学校組合)教育委員会事務局学校教育担当課</p> <p>【申込み方法】 各市町村(学校組合)教育委員会の指定する方法 ※市町村(学校組合)教育委員会一所管教育局</p> <p>【申込み締切り】 各市町村(学校組合)教育委員会事務局の指定する期日</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○国・県・私立の学校及び幼稚園 ○保育園(所) ○認定こども園 ○一般の方 	<p>【申込み先】 鳥取県教育委員会事務局高等学校課高校教育企画室</p> <p>【申込み方法】(どちらかの方法で申込む) ファクシミリ 0857-26 0408 電子メール koutougakkou@pref.tottori.jp</p> <p>【申込み締切り】 平成27年11月19日(木)</p>

平成27年度 鳥取県教育研究大会 とつとりの教育パネル展 展示一覧
 (倉吉未来中心アトリウムにて)

テーマ	地区	担当校及び機関	備考
授業改革 ステップアップ	東部	鳥取市立北中学校区	久松小・遷喬小・城北小
		鳥取市立江山中学校区	神戸小・美和小
		鳥取市立桜ヶ丘中学校区	面影小・米里小・津ノ井小・若葉台小
		鳥取市立千代南中学校区	用瀬小・佐治小
		鳥取市立気高中学校区	宝木小・瑞穂小・浜村小・逢坂小
		若桜町立若桜学園中学校	若桜学園小
	中部	倉吉市立西中学校区	明倫小・小鴨小・上小鴨小
		倉吉市立鴨川中学校区	関金小・山守小
		湯梨浜町立北浜中学校区	羽合小・泊小
		三朝町立三朝中学校区	東小・西小・南小
		北栄町立北条中学校区	北条小
		琴浦町立東伯中学校区	浦安小・八橋小・聖郷小
	西部	米子市立福米中学校区	福米東小・福米西小
		米子市立湊山中学校区	明道小・就将小
		米子市立尚徳中学校区	尚徳小・五千石小・成実小
		米子市立淀江中学校区	淀江小
		南部町立法勝寺中学校区	西伯小
		大山町立名和中学校区	名和小
日野町立日野中学校区		黒坂小・根雨小	
江府町立江府中学校区		江府小	
スクラム教育	東部	県立鳥取東高等学校	東中
		県立八頭高等学校	郡家西小・八頭中
	中部	県立倉吉東高等学校	東中・河北中
		県立倉吉西高等学校	西中・久米中・上小鴨小
	西部	県立米子東高等学校	溝口中・岸本中・日南中
		県立境高等学校(県立境港総合技術高等学校)	市内3中学校・7小学校
エキスパート教員の取組	特支	県立鳥取盲学校	理療
		県立白兔養護学校	自立活動
		県立皆生養護学校	自立活動
エキスパート教員 ステップアップ	東部	鳥取市立北中学校(理科)	
		岩美町立岩美中学校(理科)	
	中部	湯梨浜町立東郷小学校(国語)	
西部	伯耆町立岸本中学校(英語)		
	日野町立日野中学校(数学)		
特別支援教育	全県	鳥取市教育委員会教育センター	読み書き
		県立鳥取聾学校	自己表現力
		県立倉吉養護学校	センター的機能充実
幼保小連携	全県	鳥取市立こじか園	自己発揮
		鳥取市立城北小学校	保育体験を生かした接続の取組

基調講演

新学校時代に求められる学校力・教師力

— 教育改革の動向を踏まえて —

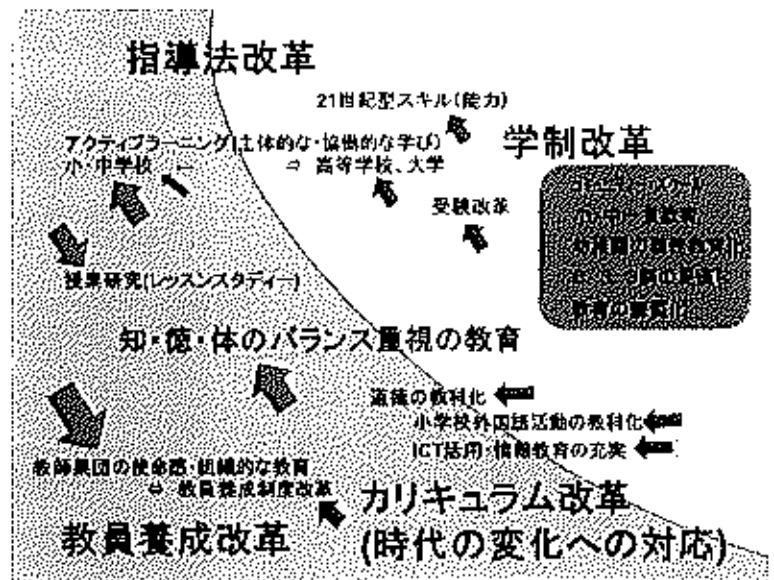
國學院大學教授 杉 田 洋

はじめに

- ・ オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授提言の衝撃
(10-20 年程度で、米国の総雇用者の約 47%の仕事が自動化されるリスクが高い)
- ・ コミュニティスクール⇒学校支援推進本部⇒地域学校協働本部に一本化の流れ
- ・ 道徳、特活、総合的な学習の時間など、日本型教育を世界に輸出
- ・ 日本の学校教育にもっと誇りをもとう (自虐的発想からの脱却)

1. 我が国の教育改革の当面の課題と求められる学校力

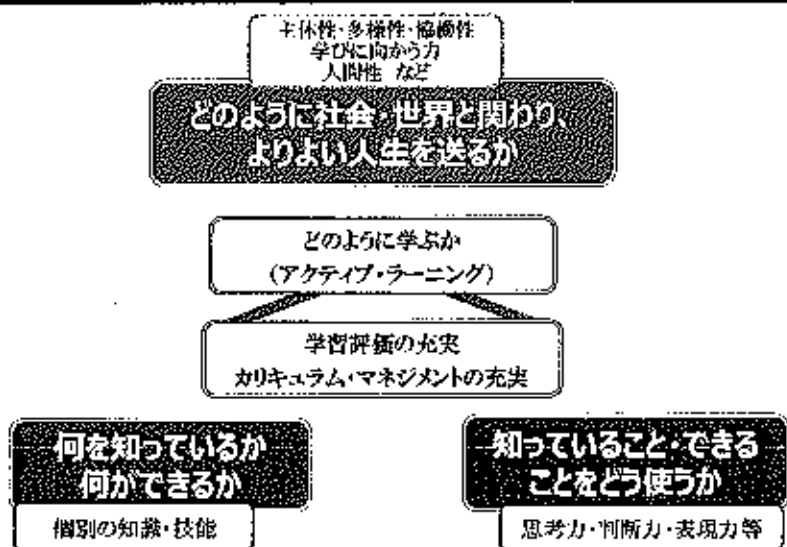
- ・ 学制改革、カリキュラム改革
- ・ 教員養成改革、指導法改革
- ・ チーム学校(校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校)



2. コンピテンシーに基づく教育改革は世界的潮流

- ・ 資質・能力の育成をめぐり議論
- ・ 何を知っているか (なにができるか)
- ・ 知っていること、できることをどう使うか
- ・ アクティブ・ラーニング (主体的・協働的な学び) への授業改善
- ・ 大学受験の改革 (認識や意志決定を問う)

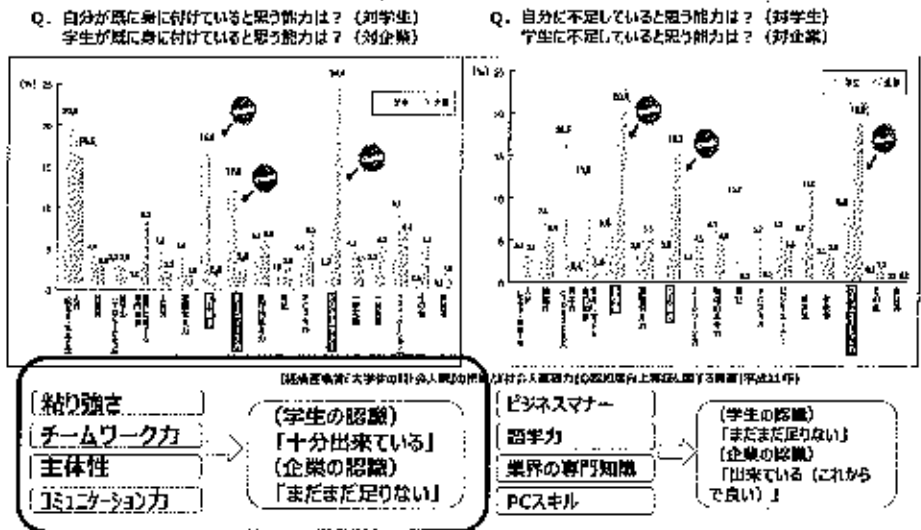
育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



- ・米中韓の生徒に比べ、日本の生徒は、「自分を価値ある人間だ」という自尊心を持っている割合が半分以下、「自らの参加により社会現象が変えられるかもしれない」という意識も低い。

学生と企業の意識のズレに関する現状

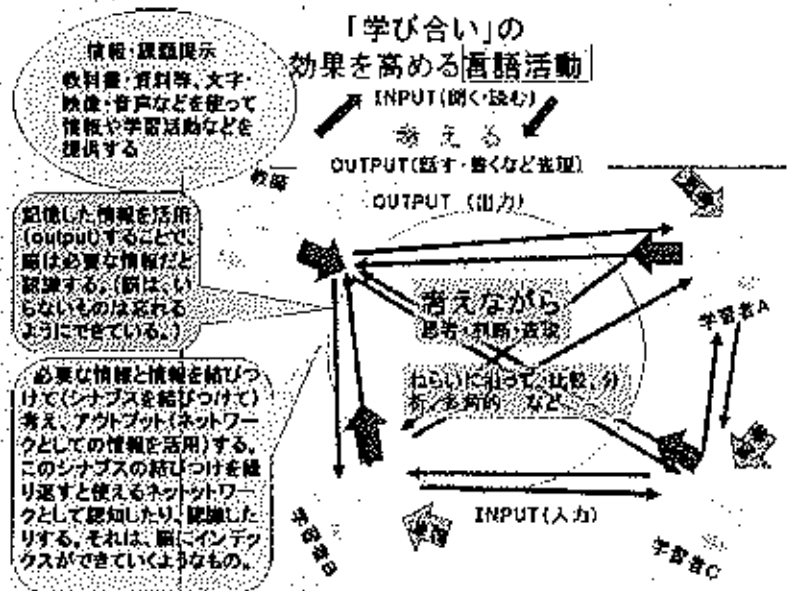
- ・「社会のことはとても複雑で、私が関与したくない」という中学生、高校生が多い。
- ・直近の衆議院議員総選挙（H26.12）の20歳代の投票率（32.58%）は、60歳代の投票率（68.28%）の半分以下。
- ・学生と企業の求める資質・能力にズレがある。
- ・人間関係についての現状と課題



「チームワーク」「主体性」「コミュニケーション能力」について学生は「十分できている」と考えているが、企業側は「まだまだ足りない」と評価しており、大きなズレがある。

3. 人の中で学び合う アクティブ・ラーニング 主体的・協同的な学び （言語活動の充実）

- ・子供たちに学びのプロセスを能動的、自覚的に関わらせる。
- ・1時間のソロとコミュニケーションのプロセスを可視化し、確認する。
- ・板書の構造化



- ・授業の内容や場面に即して、話す、書くのそれぞれのアウトプットの特徴を生かして効果的に活用する。
- ・拡散と収束、見通しと振り返りの学習サイクルの重視
- ・シンキングツールの開発
- ・柔軟な座席

「見通し」と「振り返り」

子供たちが 何を学ぶのか・どのように学んでいくのか 意識し、自覚で
 何を学んだのか・どんな力が身に付いたのかをきるようにする

「アクティブ・ラーニング」

課題の発見と解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習

言語活動

自ら考え 思考力・判断力・表現力 話し合い
 能動的・自覚的 問題(課題)意識

活用

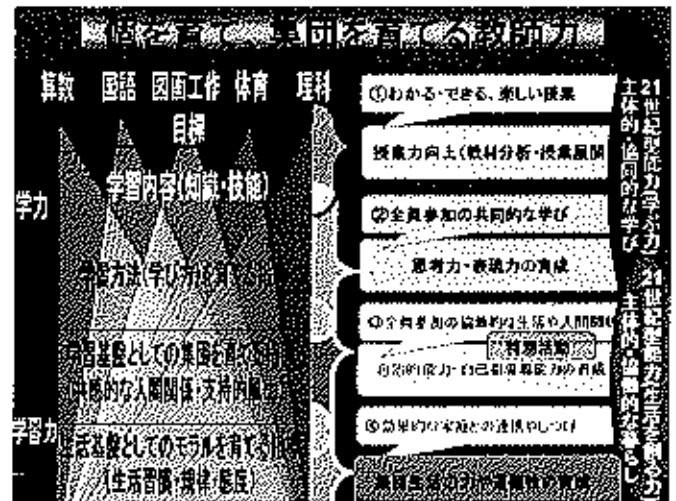
教える(覚えさせる) 知識・技能 反復・練習・訓練
 学習意欲等

育てたい 資質・能力 育った

4. 21世紀に求められる力を育てる教師力

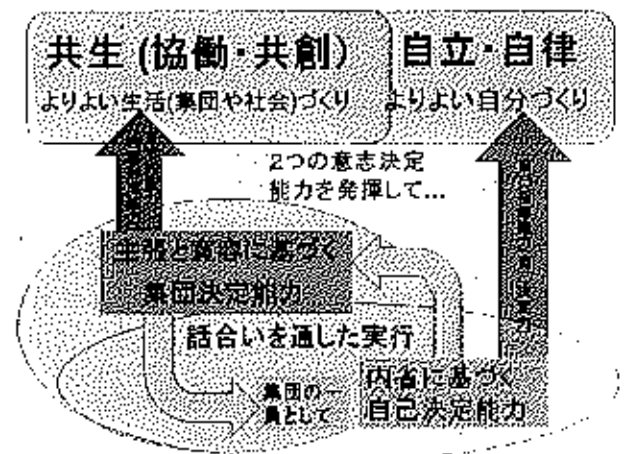
① 授業力の高い教師

- ・深い教材分析に基づき、「わかる、できる、楽しい」の授業ができる。
- ・家庭等との連携を図りながら、健全な生活態度が育てられる。加えて、アクティブ・ラーニングの授業を効果的展開できるためには、これまで以上に次のような力が必要不可欠。
- ・誰もが考え、表現できる子供たちを育てられる



② 学級力（人間関係）を高められる教師

- ・特別活動に期待された役割とその活用
- ・子供たちによる、子供たちのためのよりよい生活や人間関係づくり
- ・2つの意志決定と実践を通し、集団を育て、個も育てる
- ・社会参画のための意識や合意形成のための思考力、判断力などを育てる学級会の充実（アクティブラーニングとしての主体的・協働的な学びの基礎）



③ 自尊感情と社会参画の態度を育てる教師力

- ・子供を信じ、期待できる教師
- ・潜在的な自尊感情を育てる教師力
- ・異年齢交流活動の活用

一過性の感情

親在的
自尊感情

社会的
自尊感情

根源的で永続性
のある感情

潜在的自尊感情
基本的自尊感情

5. よりよい個と集団を育てる教師力

- ・先生はいい仕事
- ・最後まで先生であり続ける
- ・あやちゃんの卒業式

想（じょう）

人の間と書いて「人間」と読む
人間は、一人では生きていけない
教育は、人間と人間との関係の上に成り立つ
人は人によって人になる
人間は、人間にしか育てられない
人間は、人間の中で育つ(子どもは子どもの世界で育つ)

▶▶▶ 杉田 洋 (すぎた ひろし)



■ 國學院大學人間開発学部 教授
日本特別活動学会理事

前文部科学省初等中等教育局 視学官

教職歴等

- 学生時代に青少年の健全育成を中心としたボランティア活動に没頭する。このことにより、埼玉県からアメリカ、カナダに派遣される。
(これらの経験から教職を目指すことに…)
- 埼玉県浦和市立小学校 (昭和55.4～平成10.3 4校を経験) 18年間
- 浦和市教育委員会指導主事 (平成10.4～平成13.3)) 6年間
- さいたま市教育委員会主任指導主事 (平成13.4～平成16.3)
- 文部科学省初等中等教育局教科調査官職 (平成16.4～)) 11年間
- 文部科学省初等中等教育局視学官 (平成25.4～)
- 國學院大學教授 (平成27.4～)
- 文部省刊行「小学校特別活動指導資料」作成協力者として (平成6年)
- 小学校学習指導要領特別活動編・解説 作成協力者として (平成10年)
- 小学校学習指導要領特別活動編・解説 教科調査官として (平成20年)
- 国文教育実践研究会「フレット635及び指導要領035」楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小・中・高) 教育課程調査官として (平成25・26年)

▶▶▶ 主な著書

- よりよい人間関係を築く特別活動 図書文化
- 特別活動の教育技術 小学館
- 学級活動指導法セミナー(中学年)子どもがもえる活動づくり 明治図書

▶▶▶ 主な編著書・共著・監修書

- 「子どもの心を育て つなぐ特別活動」-読者のためのアプローチ- 文溪堂
- 「特別活動で子どもが変わる! ~新しい評価と指導のモデル集~ 小学館
- 『COMPACT64 教室環境づくり』 小学館
- 担任がしなければならない学級づくりの仕事12か月 (小学校低学年・中学年・高学年編) 明治図書
- 改訂対応小学校学級活動のファックス資料集 (低学年・中学年・高学年編) 明治図書
- 担任がしなければならない授業づくりの仕事12か月 (小学校低学年・中学年・高学年編) 明治図書
- 担任がしなければならない保護者対応の仕事 明治図書
- 小学校担任のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- クラブ活動7行イブツク1巻～5巻 (卓球・科学・サッカー・料理・バドミントン) フレックスメディア

基調講演 「新学校時代に求められる学校力・教師力」

～教育改革の動向を踏まえて～

講師 國學院大學 教授 杉田 洋 氏

memo

報 告

鳥取県の「教育に関する大綱」

○策定の経緯

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、首長（知事）が地域の実情に応じて、教育、学術、文化の振興に関する総合的な大綱を策定することになった。

○策定日 平成27年7月30日

○構成

【第1編】平成27年度から平成30年度までの本県教育の中期的な取組方針

○主なポイント

【第2編】毎年度の重点的な取組施策及び目標指標（毎年度改定）

1 学が意欲を高める学校教育の推進
～ 全国に誇れる学力を目指す学びの質の向上～

【主な取組】

- ・主体的・協働的に学ぶアクティブラーニング型授業の実践
- ・ICT活用教育の推進
- ・エキスパート教員の活用などによる教員の指導力向上
- ・グローバル化に対応した英語教育の推進
- ・キャリア教育の充実
- ・土曜授業等の取組の推進

など

3 学校を支える教育環境の充実

～ 安全・安心に学べる教育環境づくり～

【主な取組】

- ・いじめ、不登校、子どもの貧困対策の推進
- ・情報リテラシー教育の推進
- ・健康教育、食育の推進
- ・教職員の多忙解消

など

4 一人ひとりのニーズに対応した特別支援教育の充実

～ 個々の障がいの種類や程度に応じた教育の提供～

【主な取組】

- ・早期からの障がいの発見、相談支援の充実
- ・特別支援学校生徒の就労支援と職場定着の推進
- ・医療的ケアの実施体制強化

など

2 社会全体で学び続ける環境づくり

～ 協働連携して取り組む家庭・地域教育の推進～

【主な取組】

- ・学校支援ボランティアの活用などによる学校・家庭・地域が連携した子育て環境の充実
- ・生涯学習環境の充実
- ・ふるさと教育の推進
- ・起業・創業など夢の実現に向け学が意欲を高める仕掛けづくり
- ・過半数年齢の引下げに伴う主権者教育の推進

など

5 スポーツ・文化の振興

～ 運動・スポーツに親しむ環境づくり、文化・伝統の継承、創造、再発見～

【主な取組】

- ・ライフステージに応じた運動機会の確保・充実
- ・世界や全国で活躍するトップアスリートの育成
- ・文化芸術活動の振興

など

鳥取県の「教育に関する大綱」

はじめに

平成26年6月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教育法」という。）の改正に伴い、平成27年度から各地方公共団体の長には、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標（めざす姿）や施策の根本となる方針を明らかにするための「教育に関する大綱」（以下、「大綱」という。）の策定が求められることになりました。

平成24年3月、本県では「教育振興協約」を締結し、知事と教育委員会とが連携した取組をスタートさせるとともに、平成25年5月にはたき、教育委員会、そして民間委員による「教育協働会議」を設け、協約に基づく施策の点検や検討を行うなど、鳥取県の子どもの未来のための教育振興に先行的に取り組んできました。

鳥取県の大綱は、これまでの「教育振興協約」を継承していく認識のもと、「鳥取県教育振興基本計画」を基本として、本県教育の中期的な取組方針とともに、毎年度の重点的な取組施策を定めていきます。

知事と教育委員会とは随時協議・調整を行いながら施策の進捗状況や効果を検証し、施策の着実な推進を図るとともに、教育に対する県民の願いや思い、現場の声を大切にして迅速に施策に反映させます。

平成27年7月
鳥取県

1 学ぶ意欲を高める学校教育の推進 ～全国に誇れる学力を目指す学びの質の向上～

人口が少ない本県においては、地域全体の力を高め、地域の中で優れた人材を育てていく必要があります。ふるさと鳥取県で生まれ育った優れた人材は、県内経済や地域社会を支える次代の担い手となるほか、県外で就労・生活されてもUターン後に、豊富な経験や知識、交際等を生かして県内で活躍し県を支え、また県外から鳥取県を応援するなど、様々な形態での鳥取県への貢献・支援も期待できます。

このため、子どもたちの特長、長所を更に伸ばし、確かな学力の定着・向上を図るため、幼児期から高等学校期までの連続した鳥取ならではのきめ細やかな教育を推進し、子どもたちの学ぶ意欲を高めるための取組を進めていきます。

また、主体的・協働的に学ぶ人材を育成するため、少人数学級の取組やアクティブ・ラーニング型の授業実践、情報モラルを踏まえたICT活用教育の推進、エキスパート教員の優れた指導力を活用した教員の授業力・指導力向上などにより、学力向上に向けた授業改革を進めます。

加えて、グローバル化に対応した英語教育の推進、「生きる力」を身に付け、地域ニーズに対応できる人材の育成を目指したキャリア教育の推進、豊かな学習機会を提供する土曜授業等に取り組みなど、教育現場の活性化を促し、子どもたちの学びの質の向上に取り組みます。

2 社会全体で学び続ける環境づくり ～協働連携して取り組む家庭・地域教育の推進～

ふるさと鳥取県を愛し、自立して心豊かに生きる人材を育てていくためには、教育に対する考え方を地域と共有し、地域とともに教育・人づくりを進めていくことが必要です。

このため、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育てる体制づくりを推進する一方で、保護者への学習機会提供や相談支援体制の整備などにより家庭教育を充実するほか、公民館などの学びの場を拠点とした自然体験・社会体験にチャレンジする機会、異世代が交流しふれあう機会の創出や、図書館・博物館などの社会教育施設の機能充実も含めた生涯学習環境の充実などにより、社会全体の教育力を高めていきます。

また、「ふるさと鳥取」に愛着と誇りを持った人材を育てていくため、自然・歴史・文化などの優れた地域資源を活用した「ふるさと教育」を推進するとともに、科学・ものづくりの楽しさを知る機会の充実や、子どもたちの学習意欲の向上や起業・創業など夢の実現に向けた意欲を高める教育の推進などに取り組みます。

加えて、子どもたちの豊かな心を育み規範意識を高める道徳教育や、政治や選挙に対する関心を高め主体的に社会に参画する力を育成する主権者教育を推進するなど、社会の一員としての自覚と責任を促します。

3 学校を支える教育環境の充実 ～安全・安心に学べる教育環境づくり～

子どもがのびのびと学ぶためには、安全・安心な学習・生活環境を整える必要があります。

このため、学校と家庭、地域、関係機関が一丸となっていじめ防止に総合的に取り組むとともに、不登校や特別な支援を必要とする子どもたちへの効果的な支援と子どもの貧困対策の推進のため、学校等における組織的な対応を強化し、教職員の対応力向上やソーシャルスキルトレーニング等を活用した学級づくり・人間関係づくりに取り組むなど、安心して学べる教育環境づくりを推進します。

また、急速に進展する情報化に対応して子どもたちの健全な成長を支えるための情報モラル教育の充実を図るとともに、子どもたちが生涯にわたって心身ともに健康な生活を送る基礎づくりのため、健康教育や食育の推進に取り進むほか、通学路の安全対策をはじめとした交通安全や防災、防犯などの安全教育の推進、鳥取県版環境管理システム（TEAS）の取得や自然エネルギーの導入などの環境教育の推進、教職員が子どもたち一人ひとりと向き合える環境を整備するための教職員の多忙感解消などに取り組めます。

加えて、時代のニーズや地域の実情に応じた魅力ある学校づくりに地域と連携して取り組めます。

4 一人ひとりのニーズに対応した特別支援教育の充実 ～個々の障がいの種類や程度に応じた教育の提供～

特別な支援を必要とする児童生徒が年々増加している中、障がいのある子どもたちが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、輝ける存在として社会でいきいきと暮らしていくためには、一人ひとりのニーズに対応した教育を進めていくとともに、障がいに対する県民の理解を深め、共生の心を育む地域づくりを進めていくことが重要です。

このため、早期からの障がいの発見、相談支援の充実を図り、幼児から高等学校期まで連続性のある教育を推進するとともに、在学中から学校と労働、福祉等関係機関との連携を強め、適切な就学先決定、就労支援と職場定着に取り進むほか、医療的ケアの必要な児童生徒への支援体制の充実に取り進むなど、個別の教育的ニーズに的確に応える教育環境の整備を推進します。

また、特別支援学校が、その専門性を基盤として、地域の特別支援教育拠点としての役割を担えるよう、教育相談や研修機能の充実に図ります。

加えて、全国初の手話言語条例の制定をきっかけとして、ろう及び手話への理解促進や手話を学ぶ機会を拡大を図るとともに、県民への障がいの理解・啓発を図ります。

5 スポーツ・文化の振興

～運動・スポーツに親しむ環境づくり、文化・伝統の継承、創造、再発見～

運動・スポーツは、子どもたちの体力を向上させ、豊かな心と健康やかな体を育む基盤となります。本県出身の選手の世界や全国の舞台での活躍は、県民に夢や希望をもたらし、明るく豊かで活力に満ちた社会を創造します。

また、本県の先人たちが育んだ伝統と個性のある文化・芸術に県民が触れ、地域への理解と絆を深めることは、郷土を愛し、豊かな人間性を持った人材の育成につながります。

このため、幼年期から楽しく体を動かす機会を確保し、運動（遊び）が日常的に定着し習慣化されるよう、ライフステージに応じた運動機会の確保・充実、必要な環境整備を図るとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を絶好の機会と捉え、ジュニア期からの一貫指導体制の一層の充実を図るなど、世界や全国で活躍する選手の育成に取り組めます。

加えて、子どもたちの豊かな人間性の育成と共生社会実現のため、文化芸術活動を通じていきいきと活躍できる場の充実を図るほか、県民が多様な文化芸術に親しむ環境づくりを進めるとともに、県民の財産である文化財や伝統文化を知り、接する機会を創出し、その保存、次世代への継承にも取り組みます。

第二編 平成27年度重点取組施策

1 学ぶ意欲を高める学校教育の推進 ～全国に誇れる学力を目指す学びの向上～

- ① 小中一貫教育の推進
地域住民との協働・連携による小中一貫教育を推進するため、中学校区で長年修習の学習意欲を醸成し、自在に子どもと関わりあうことで小中の垣間の連続性のあるよりキャリア学習を推進する市町村を支援します。
- ② 小中高連携による教科指導の体制づくり
県内に設置した3つのモデル地区（ソリー）で、小中高が課程又は教科の教科指導を連携して連携し、小中高を見通した学習内容の定着と応用力を伸ばす教科指導体制のモデルづくりに取り組めます。
- ③ 効果小連携の推進
豊かな自然を三かすなどした遊びさる子どももの育成や、小学校教育との連携による円滑な接続を図ることを目指して作成した「効果小連携カリキュラム」を県内に普及するため、実践例をわかりやすくまとめた動画制作や、研修会・研修会・研究会・発表会などにおいて教員間の指導力向上の研修等に活用し、幼児教育の充実を図ります。
- ④ 授業改革の推進
子どもたちの主体的・価値的な学びを目指すため、シラabusの取組を促進し、知識習得的な学習や小中学校から中学卒業までの9年間を通じた学力向上につながる授業改革に取り組む中学校や教育研究団体を指定し、その成果を県内に普及します。また、高校でのアクティブ・ラーニング型の授業形式を学校に合う「学びの進化版」を推進し、その成果を県内に普及します。さらに、学校図書館の活用により、児童生徒の主体的に学ぶ力を養成するため、県立図書館に「学校図書館実践センター」を全国で初めて開設し、学校教育をバックアップします。
- ⑤ ICT活用教育の推進
ICTを活用して実践した教科指導等を行うユキスパス・教員の意欲を高めるため、教員等のICTで活用指導力の向上等に努めるとともに、広域企業・不登校で構成するコンシェルジュチームを設立し、授業におけるICTの効果的な活用を推進します。また、ICTを活用した教材やユキスパス・教員の授業映像を配信・共有することにより、県内の教員が学び、授業を高め合う仕組みを構築します。
- ⑥ 教員の指導力の向上
新たなユキスパス・教員を育成するとともに、中学校区等での学校の指導力の向上に取組むため、教員が互いに学びあう風土をつくるため、中核教員を養成など、教員の指導力の向上に取り組めます。
- ⑦ グローバル化に対応した英語教育の推進
グローバル化に対応した教育実践づくりや、2020年の新学習指導要領の全国展開に対応する英語科授業の指導力を高めるため、教員研修を充実します。また、子どもたちの外国に対する興味・関心と英語によるコミュニケーション能力を高めるため、外国語指導助手（ALT）の配置や海外研修・海外体験への奨励などの取組のほか、とつとつイングリッシュクラブの活動などを通じて外国の子どもたちともたつとつ交流の充実を図ります。
- ⑧ キャリア教育の充実
社会的に自立する能力や態度を育て、夢や希望に向かって果敢にチャレンジする高次元を育成するため、各学校の体系的なキャリア教育推進計画の作成を支援を行うユキスパス・イザナーの配置やキャリア教育を支援する企業を「鳥取県キャリア教育推進協力企業」に認定するなどして、全ての県立高校でキャリア教育を推進します。

平成27年度指標一覧

<p>・学級数を高める学校教育の推進 ～全国に誇れる学力を目指す学びの質の向上～</p> <p>・全国学力・学習状況調査において全国平均を上回るとともに、別紙に定める学力向上指標において単年級を上回る。</p> <p>・専修学校が5年度当初に設定する学力向上の推進に係る指標を全ての学校で達成する。</p> <p>・エキスパート、教員の数が単年級を上回る。</p> <p>・幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るためのスタートアップキネマが構築されている小学校の割合を向上する。【目標値：80%】</p> <p>・未就学児の学力向上に関する調査を実施し、小学校 50%、中学校 80%、高校 100%。</p> <p>・全ての専修学校で土曜日を活用した教育活動に取り組む。</p> <p>・5年度で二種職業等に就く。</p> <p>・全ての専修学校で企業初任キャリア教育推進計画を作成する。</p> <p>・教員のICT活用指導力調査において、教員のICT活用指導力が全国平均を上回る。</p>	<p>・社会全体で学び続ける環境づくり ～協働連携して取り組む気風・地域教育の推進～</p> <p>・学校支援ボランティアの登録率が単年級を上回る。</p> <p>・県立両式校で模擬投票を実施するとともに、全ての県立高校で模擬選挙の学習を取り入れた土曜教育を推進する。</p> <p>・学校を支える教育環境の充実 ～安全・安心に学べる教育環境づくり～</p> <p>・不登校が定着防止への指導の充実、悪化する又は悪化している児童生徒の割合が前年を上回る。</p> <p>・不登校の出席率が全国平均を下回るとともに前年より増進する。</p>
<p>～人ひとりのニーズに対応した特別支援教育の充実 ～個々の障がいの種類や程度に応じた教育の提供～</p> <p>・教育センターが関係する全ての基本研修において手帳の普及に努め、</p> <p>・中学校から専修学校への特別の教育支援計画の引継ぎ率を100%にする。</p> <p>・スポーツ・文化の振興 ～運動・スポーツに親しむ環境づくり、文化・伝統の継承、創造、再発見～</p> <p>・鳥取県体力・運動能力調査結果の総合判定（A～Eの5段階）において、A又はBの割合が目標を上回る。</p> <p>【目標値】小5男子 50%、小5女子 85%、中2男子 50%、中2女子 65%】</p> <p>・国民体育大会での入賞（8位以内）が種目数で50種目、人数で120人をお回る。</p> <p>【目標値】種目数 50種目、人数120人。</p> <p>・文化・芸術、スポーツ等の分野で、全国で活躍する万歳・生楽殿（全国9位以内）が60人をお回る。</p> <p>・近畿高等学校総合文化祭参加大会への参加、観覧生数の目標を15,000人とする。</p>	

② 特別支援教育と障がいのある子どもへの理解・啓発
 教員をはじめ、保護者、地域の若、広く県民に対して研修や広報活動等を通じて、特別支援教育の理解が深いある子どもへの理解、啓発を図ります。

③ 特別支援教育における芸術的ケア推進体制の充実
 学校支援員が提供する活動の質を向上するとともに、学芸と芸術関係機関との連携を強化し、幅広い芸術的ケアの必要を担う人材に対する安全の確保と教育の充実に取り組めます。

④ 手話教育の推進
 教員に手話研修の機会を取り組むほか、手話普及コーディネーターを配置して手話普及支援員を養成し、学校におけるろう及び手話への理解が深まるよう連携型研修を実施するとともに、手話学習プログラムを作成し、各教科の授業と結びつけながら研修を学ぶ機会の拡大に取り組めます。

⑤ 特別支援学級生等の職場定着の推進
 卒業生の就職定着を推進するため、特別支援学校に定着支援コーディネーターを配置し、企業、民間及び福祉界の関係機関と連携しながら、ジョブマッチングや就職後のフォローアップを強化します。

5 スポーツ・文化の振興
 ～運動・スポーツに親しむ環境づくり、文化・伝統の継承、創造、再発見～

① 運動遊びや体育学習の充実
 幼年期から単一体育を助成・指導すること、運動（遊び）が身体的に定着し、習慣化されることを目指して、子どもたちの運動意欲を引き出し、体力向上を図るため、体育学習や放課後等に地域人材を活用した運動遊び等の運動機会の確保・充実に取り組めます。

② トップアスリートの育成
 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、ジュニア期からの一貫指導体制の一環の充実やタレント発掘及び選手育成、トップアスリートと子どもたちが出会い、社会の創出に取り組むなど、世界や全国で活躍する選手を育成するとともに、区内外トップアスリートAのキャッチアップ研修などに取り組めます。

③ 文化芸術活動の振興
 障がい者芸術文化祭への参加を通じて得られた経験を学ぶため、「あいさぽーと・特別支援学校合同文化祭」を県性し、誰もが楽しめる子どもたちの文化活動の活性化と、文化芸術活動を通じて障がいのある人との交流の機会を拡大に取り組みます。また、不登校を克服し、積極的に参加する「近畿高等学校総合文化祭」を生涯館中心となって運営し、三休日を推進し、企業力等を育むほか、障がいのある生徒とも文化活動の喜びを分かち合うなどして、区内各地の学校で生徒同士の交流を拡大するとともに、各校の文化芸術活動の充実・発展に取り組めます。

【学力向上指標】

学力調査の状況	
(1) 全国学力・学習状況調査の実施教科において、前年度よりも最上位層の割合が全体の割合を上回り、最下位層の割合が全体の割合を下回る	
(2) 全国学力・学習状況調査において、過去の調査と同様の問題の正答率について全国平均を上回った割合が前年度を上回る	
(3) 全国学力・学習状況調査において、記述式の問題の解答正答率について全国平均以下であった割合が前年度の割合より下回る	
学び方の質・学習状況	
(4) 意欲・理解に向かう姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 「身に付いた知識・技能や理解を、生活の中で活用できないというえる。児童生徒の増進(進歩・進学) 「発達の口で『わかった』。学んだことについて『もっと知りたい』と感じる」児童生徒の増加 「学校の授業は、内容がわかりやすく、発信することの充実感を感じる」生徒の増加 「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導をする」学校、教員の増加
(5) 体験活動・読書活動の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 「授業で体系的な学習を取り入れている」学校の増加 「食育・プログラミングに取り組み」学校の増加 「読書が好きである」児童生徒の増加
(6) 家庭における学習者の状況	<ul style="list-style-type: none"> 「家で、自分で計画を立てて勉強している」児童生徒の増加 「進んで取り組んでいることをほめている」保護者の増加 「卒業後に対する言語・算数(数学)の指導として、保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行う」学校の増加
望みに生きる共に生きる方の状況	
(7) 自分自身や他者、社会等との関わりに関する意識	<ul style="list-style-type: none"> 「嬉しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。児童生徒の増加 「地域や社会で起きている問題や出資に関心がある。児童生徒の増加 「ボランティア活動に参加している」生徒の増加
(8) 進路に向けた意識	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の増加 「自分の進路を表現するために、目標に向かって努力している。生徒の増加
(9) 地域社会への参画状況	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の行事に参加している」児童生徒の増加 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」児童生徒の増加

自立して心豊かに生きる未来を創造する鳥取県の人づくり

平成27年度の取組から



意欲・活用力／社会性・自立・遊ぶきる

＜学ぶ意欲を高める学校教育の推進＞～全国に誇れる学力を目指す学びの質の向上～

- 校種を超えた連携による保育改善、授業改革の推進
- アクティブラーニング推進事業～21世紀型能力を育む次世代授業の創造～
- 教職員の資質・能力や指導力の向上(AL21s研修・ICT活用教育、出かけるセンター等)

＜社会全体で学び続ける環境づくり＞～協働連携して取り組む家庭・地域教育の推進～

- 学校支援ボランティア事業、放課後子ども教室推進事業、「地域未来塾」事業
- 家庭教育支援事業(フアンリテータ派遣、アドバイザー派遣、広報)

＜学校を支える教育環境の充実＞～安全・安心に学べる教育環境づくり～

- いじめ防止の取組(いじめ防止対策推進事業)
- 不登校児童生徒への支援(不登校対策事業)
- 学校・家庭・地域が連携して、いじめの防止等のための効果的な研究実践(地域と共創るとっとり人権教育事業)

＜一人一人のニーズに対応した特別支援教育の充実＞～個々の障がいの種類や程度に応じた教育の提供～

- 「インクルーシブ教育システムの構築に向けて」
- 教職員の専門性向上(特別支援学校の専門性向上・小中高等学校等体制整備)
- 地域における支援体制の整備

＜スポーツ・文化の振興＞～運動・スポーツに親しむ環境づくり、文化・伝統の継承、創造、再発見～

- 子どもの運動意欲や体力向上を図る取組(子どもの体力向上推進プロジェクト事業)
- 世界や全国で活躍する選手の育成を図る取組(2020東京オリンピック・パラリンピック代表選手育成プロジェクト)
- 共生社会の実現を目指した文化芸術活動の振興(あいサポート・特別支援学校合同文化祭の開催)
- 近畿高等学校総合文化祭の開催

分科会 I

会場 大ホール

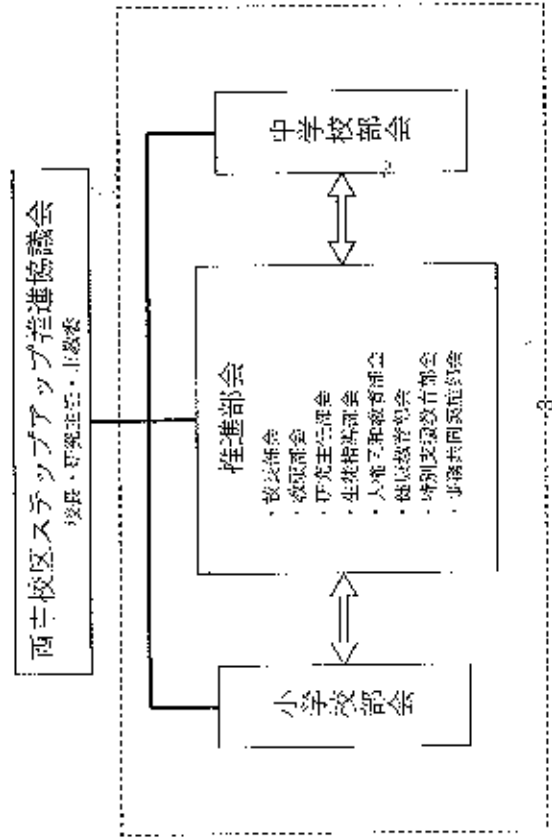
**自らが学び続ける児童・生徒の育成
～西中校区の小中連携の取組から～**

倉吉市立西中学校区ステップアップ推進協議会
会長 加藤 晋彦(倉吉市立西中学校校長)

西中校区の紹介

	児童生徒数	西中389名のうちの出身小学校	その他
西中学校	389名		
上小鴨小学校	91名	44名	一部は鴨川中学校へ進学
小鴨小学校	433名	193名	母子支援施設
明倫小学校	133名	72名	児童福祉施設
社小学校	294名	72名	久米中・英中・西中の3校に進学

事業の組織図



西中校区ステップアップ推進協議会で
確認した内容

相互不信から相互信頼へ
～長期的な育ちの見通しと環境づくり～
* 子ども理解の一貫性

* 教育目標の一貫性と継続

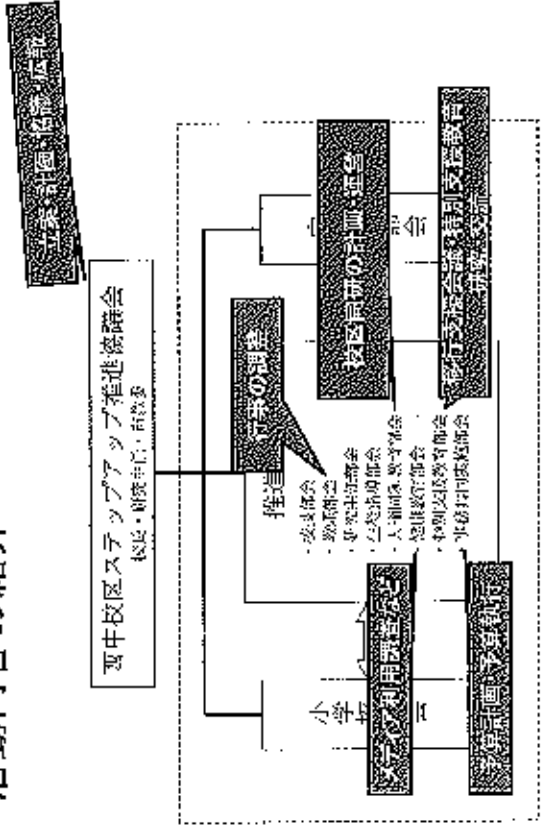
* 指導の継続性

平成25年度 全国学力・学習状況調査
御茶ノ水大学 耳塚寛明副学長研究チームの報告から

「奇跡のような学校」で行われていたこと

- 1、家庭学習の指導
自主学習に力を入れる。教員はさせっぱなしにせず日々点検しコメントを書き返す。
- 2、教師のチームワークのよさ
授業を見せ合い教え合う。子どもの実態を踏まえる姿勢を大切に
する。
- 3、小中連携
学習や生活指導方針を共有している。

活動内容の紹介

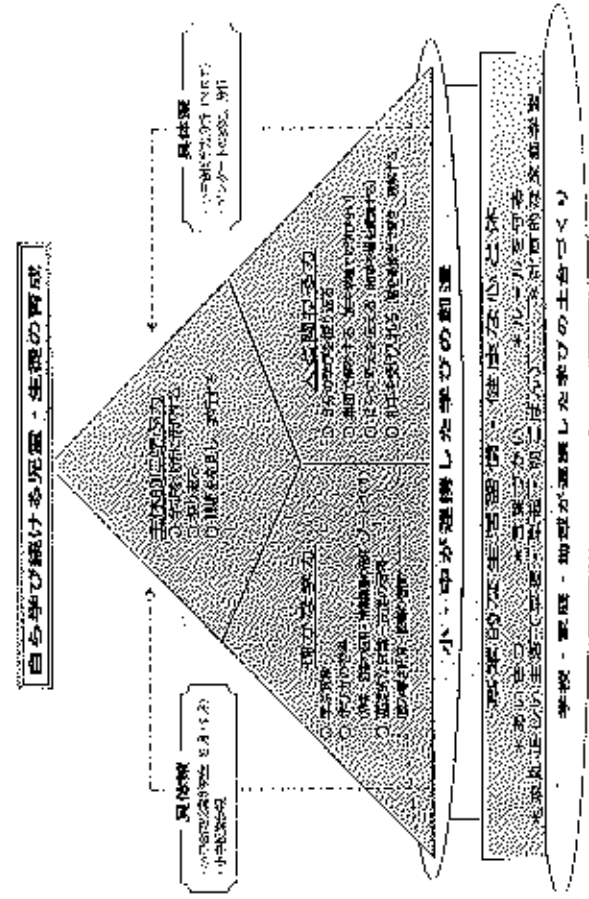


1 研究の視点・内容

(1) 校区の現状分析

- 学力諸検査 → 全国・県を上回る
- 学習に真剣に集中して取り組む姿勢
- ▲主体的に学ぶ姿勢
- ▲仲間と関わり合いながら学ぶ力
- ▲思いを伝え合う力
- ▲家庭学習の量や取り組み方

事業のイメージ図



ステップアップ 9 (2)	ステップアップ 9 (3)
<p>1. 目標設定</p> <p>2. 学習計画</p> <p>3. 学習記録</p> <p>4. 学習評価</p>	<p>1. 目標設定</p> <p>2. 学習計画</p> <p>3. 学習記録</p> <p>4. 学習評価</p>

(2) テーマ

『主体的に学ぶ児童生徒の育成』

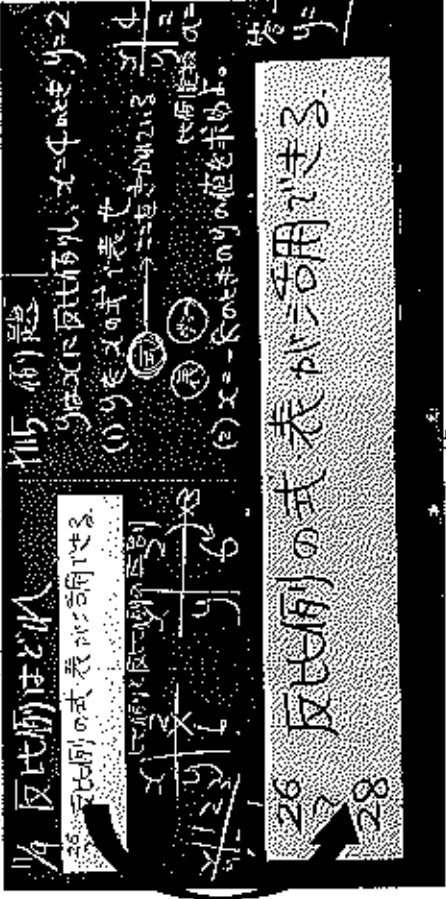
- ① 「できた」「わかった」が実感できる
授業づくり
- ② 児童生徒が関わり合いながら学ぶ
授業づくり
- ③ 自ら学ぼうとする意欲が高まる
授業づくり

(3) 目標及び成果指標

- ① 学力諸検査で、市・県の平均以上
5段階評価で3以上が75%以上
- ② 児童・生徒の授業アンケートで「授業
に満足」している割合が70%以上
- ③ 各学年ごとに家庭学習時間目標を
達成している児童生徒が70%以上

(4) 共通の取組の内容

- ① 1時間の授業の『めあて』『目標』を
黒板や掲示板上に記入する



② 学習に見通しをもたせる工夫

中学校では單元カードを作成

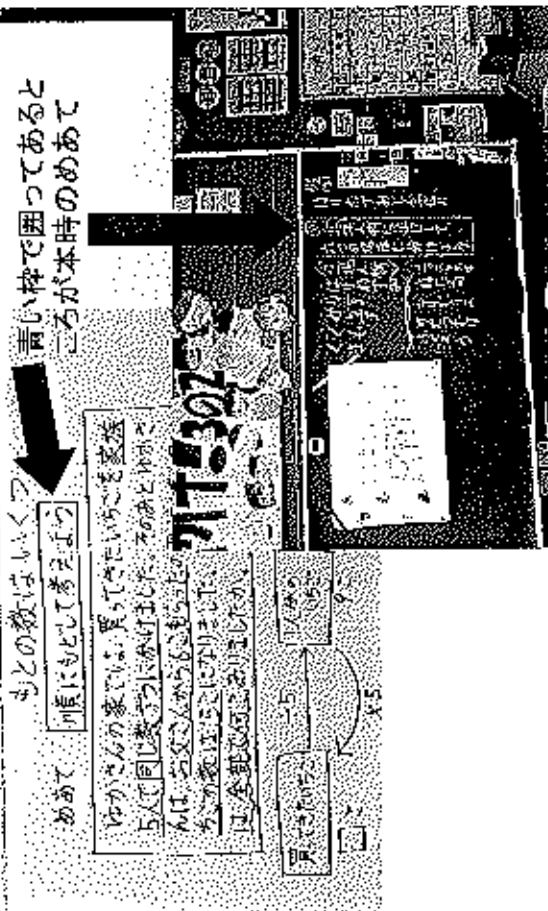
1年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力
担当 1年 数学科 寺

単元	単元課題	単元	単元課題
1	1年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	1	1年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
2	2年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	2	2年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
3	3年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	3	3年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
4	4年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	4	4年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
5	5年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	5	5年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
6	6年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	6	6年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
7	7年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	7	7年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
8	8年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	8	8年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
9	9年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	9	9年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
10	10年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	10	10年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
11	11年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	11	11年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
12	12年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	12	12年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
13	13年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	13	13年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
14	14年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	14	14年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
15	15年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	15	15年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
16	16年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	16	16年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
17	17年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	17	17年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
18	18年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	18	18年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
19	19年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	19	19年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)
20	20年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)	20	20年 数学科 自己学習カード(単元・単元課題 柱・筋・短題 寺…数学科協力)

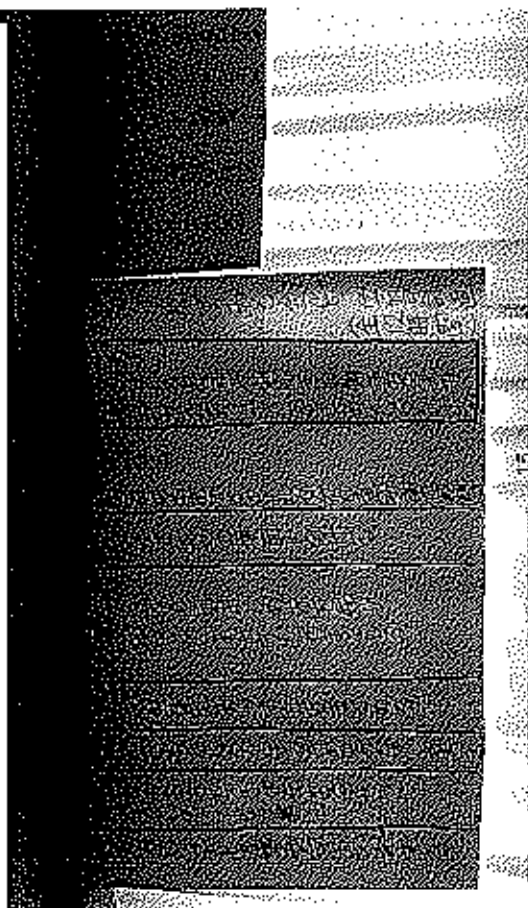
③ 学習形態を効果的に組み合わせて「学び合い」を授業の中に仕組む

ア ペア学習・グループ学習・クラス全体の話し合いを効果的に使う

イ 「学び合い」を支えるスキルを身につけさせる



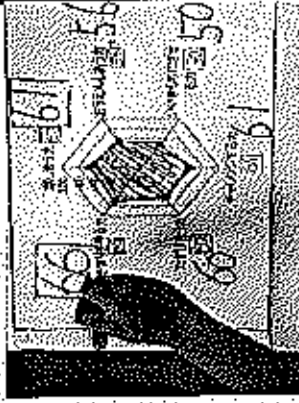
小学校では、国語の学習計画を掲示
 (3年生 はりねずみと金貨 全12時間)



④ 授業を支える「学級のカ」を
高める取組

ア 小学校の取組

- * 各小学校から
先進地視察
- * レーダーチャート
- * CCT
(クラスカルチャータイム)
- * レーダーチャートを使ったクラス会議



イ 中学校の取組

「日常が鍵」

- * 2分前授業開始の
取組
- * 授業評価と
優秀班・努力班・MVP
- * 生活班での家庭学習に
かかわる取組

学年	1	2	3	4	5	6
教科	国	数	英	理	社	体
評価	A	B	C	D	E	F

⑤ 家庭学習を充実させる取組

家庭学習の取り組み

小学校

学年	取組	効果
1年	読書タイム	読書量が増え、語彙力が向上した。
2年	算数ドリル	基礎的な計算力が定着した。
3年	国語読書	読解力が向上し、作文力が伸びた。
4年	英語学習	英語の発音やリスニング力が向上した。
5年	理科実験	科学的な思考力が養われ、実験レポートが充実した。
6年	総合学習	課題解決能力が向上し、プレゼンテーション力が伸びた。

ア 小学校の取組
「家庭学習がんびり週間」の設定

中学校の定期テスト
に合わせて「家庭学
習がんびり週間」を
設定する。



学年	科目	学習時間	学習内容
1年	国語	30分	読書
2年	算数	20分	ドリル
3年	国語	30分	読書
4年	英語	20分	リスニング
5年	理科	30分	実験
6年	総合	40分	課題解決

イ 中学校の取組

単元	学習内容	学習時間
...

単元	学習内容	学習時間
...

21

2 授業改善の取組

(1) 各学校での校内授業研究会

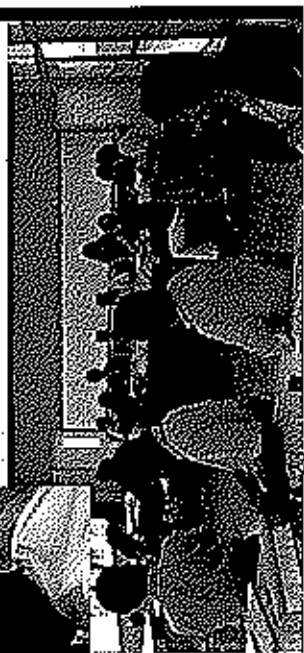


(2) 小中合同授業研究会

6月24日 (西中)



2年 家庭科
3年 理科



9月16日 (明倫小)



6年 国語



3 成果と今後の方向性

(1) 成果指標に対する結果

① 学力諸検査の5段階評価で

3以上が75%以上

- * 中学1、2、3年生のNRTの検査では5段階評価で3以上が75%以上である
- * 5教科で市の平均・県の平均を上回っている
- * 数学で、大きく開いている

② 生徒の授業アンケートで「授業に満足」している割合が70%以上

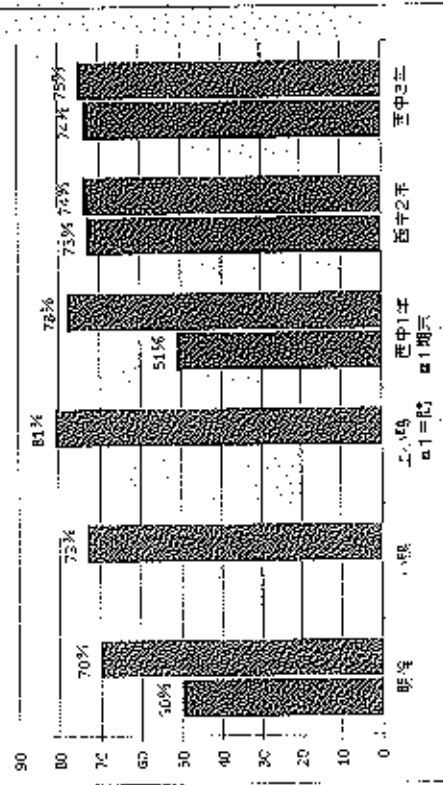
7月実施 授業アンケート

「授業に意欲的に取り組んでいますか」

1年生	2年生	3年生
87%	83%	84%

③ 各学年ごとに家庭学習時間目標を達成している児童生徒が70%以上

家庭学習の目標時間達成率



(2) アンケートの結果から

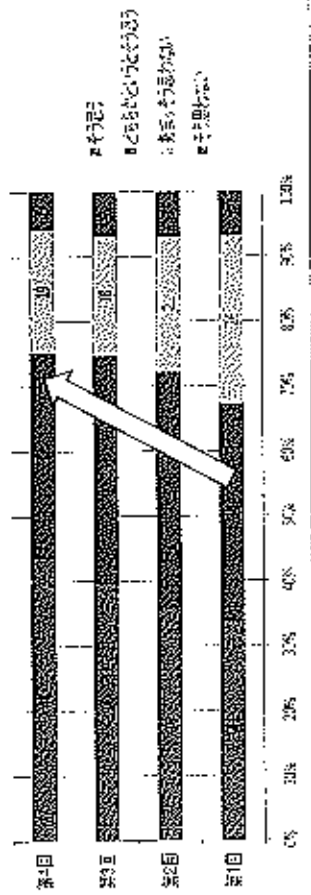
① 児童生徒の変化

授業の中で、自分の考えを説明するときに相手にわかりやすく伝える工夫をしていますか。



① 児童生徒の変化

家で計画的に学習していますか。

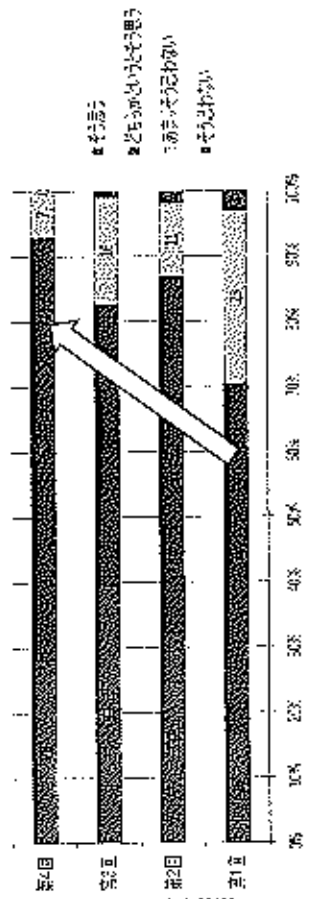


29

30

② 教職員の取組の変化

授業の中で、ねらいをはっきりさせて友だちと話し合う活動を設定していますか。



30

(3) 成果

「奇跡のような学校」で行われていたこと

- 1、家庭学習の指導
 - ・ステップアップ協議会を通して小中共通の取組が進んだ
 - ・家庭学習の取組に変化が現れてきた
 - ・保護者も巻き込んで意識を変える取組ができた
- 2、教師のチームワークのよさ
 - ・共通した内容で授業改善に取り組んだ
- 3、小中連携
 - ・共通した内容で授業改善に取り組んだ
 - ・ステップアップ協議会を通して小中共通の取組が進んだ

31

(4) 解決したい課題

- ① 意欲や学力の二極分化を解消する
- ② 学習内容の系統性の連携を図る
- ③ 小中連携からチーム西中学校区への発展

32

(5) 成果から今後の方向性

① 2年間のステップアップ事業の取組



② 小中連携の土台ができ、取組が
具体化した



③ 西中校区ステップアップ推進協議会
取組を継続する

1 はじめに

美保小学校

児童632名
職員40名
約15園から入学
子どもの実態
パワーがある
(向上心、団結力)
素直 元気

美保保育園

園児186名
職員47名

子どもの実態

素直で人懐っこい
体を動かすことが好き
やるときは一生懸命やる

共通の課題

・基本的生活習慣の定着
・集中して話を聞くのが
難しい
・持続力が弱い
(こつこつ取り組む)

・基本的生活習慣の定着
・話を聞くことが難しい
・体力、持久力に欠ける

育ちと学びをつなぐ

～小学校教諭の保育園における長期社会体験研修での
取組を通して～

美保保育園 西川美佐絵
美保小学校 松川 智子

2 これまでの保小連携の実態

<子ども>

- ・子ども同士の交流 (1年生との交流)
- ◆人数が多い、集団が大きい
課題意識の共通理解ができにくい

<教職員>

- ・保小連絡会
- ・保育園職員の新1年生の授業参観
- ・小学校教員の保育参加

※もっと連携を深めていくことで、課題解決につなげるのではないか。

3 長期社会体験研修を受けて

研修のねらい

- ・保育体験を通して、幼児教育や幼児期の発達を理解する。
- ・保育園と小学校の連携や交流のあり方について研究する。
- ・スタートカリキュラムの改訂を行う。

4 研修の内容

- ①保育体験
- ②年長児とのかかわり
- ③保小交流(子ども同士)
- ④職員の連携
- ⑤職員、保護者への発信
- ⑥スタートカリキュラムの改訂
- ⑦保小連携計画の作成

5

保育園と小学校をくらべて

- * 共通点
 - ・体カづくり
 - ・温かい声かけ(自己肯定感を育てる)
 - ・集団生活、ルールを守る
- * ちがいがい
 - ・遊びや体験を通して学ぶ
 - ⇒教科中心の学習
 - ・時間が流動的⇒生活時程がある

入学時の段差になる

段差を小さくするため
課題をさらに知り分析するため
⇒わくわくタイムの実施



7

①保育体験

＜各年齢のクラスの保育体験から感じたこと＞
子どもについて

- ・素直で、活動に一生懸命取り組む。
- ・手伝いや当番活動を進んでする。
- ・年長児は得意が多い。園のリーダー。
- ⇒入学時、世話をしすぎにないか。

保育士、園について

- ・保育士の言葉かけ、表情の切り替え、興味の惹き方
- ・安全・衛生・健康面への配慮、保護者への対応
- ・季節感を大切にしている行事、環境構成
- ・子どもが常にいる。
- ・様々な勤務形態がある。

6

②年長児とのかかわり

わくわくタイム (毎週金曜日30分間)

- * 「みてきく」ルール
 - * 「めあて」の提示
 - * 始めと終わりのあいさつ
- ☆体・徳・知に関わる内容

「学習」につながる

体(生活) 健康な体づくり	徳(人とかかわり) 豊かな人間性づくり	知(興味・関心) 学びの基礎づくり
ボール遊び、おにぎり、食事のマナー、豆つまみゲーム	ゲーム遊び(友達と協力)、交流会に向けて準備しよう	フィールドビンゴ、糸電話作り、リズム遊び、給食クイズ

8

<わくわくタイム事例>

☆4月(第1回)

友達といろいろなゲームをして楽しもう

観点(人とのかわわり)

視點(きまり~たのしいね~)

ねらい(ペア、グループ、クラス全体の3つの形

態で、ルールを守ってゲームを楽しむ)

内容(伝言ゲーム、しりとりとドカンゲーム等)



☆5月(第5回)

みんなの音を合わせて楽しもう(リズム遊び)

観点(興味・関心)

視點(表現~つたえたいな しりたいな~)

ねらい(友達と一緒にリズムに合わせて手拍子や

足踏み等して表現活動を楽しむ。)

内容(まねっこリズム、手足でリズム打ち)



わくわくタイムに取り組んで(4~10月)

*実施後は毎回、担任とふりかえりを行い良い点や課題を話し合ってきた。

気づいたこと

- ・活動を進んで楽しく行う。
- ・提示したことには一生懸命取り組む。
- ・日々の生活の中でも、座ったり立ったりするときに、じっとしていられない子どもがいる。

課題

- ・姿勢の保持、体力の持続が難しい
- ・「みてきく」ことがまだできていない

※体づくりが必要

⇒「からだ元氣ランドへようこそ」の取り組み

※読み聞かせの継続

☆8月(第16回)

箸を正しく持って、おいしく食べよう

観点(生活)

視點(健康~げんきいっぱい~食育)

ねらい(箸の正しい持ち方やその理由について

知り、今後に生かそうとする気持ちを持つ。)

内容(箸の正しい持ち方、豆つまみゲーム)



☆毎週金曜の給食後

読み聞かせ(自然や科学に関わる本)

観点(興味・関心)

視點(意欲~おもしろそうだな~)

(探究心~どうしてかな~)

ねらい(読み聞かせを通して、話を聴く態度を

養う。自然や科学に興味・意欲を持つ。)

内容(自然や科学に興味・意欲を持つ。)



からだ元氣ランドへようこそ(11~12月)

観点(生活)

視點(健康~げんきいっぱい~運動)

ねらい(体全体を使った様々な運動遊びに、進んで楽しく取り組む)

内容(A~Dコースの運動に取り組み)

Aコース バランスをとろう

Bコース ジャンプしてみよう

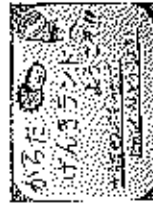
Cコース ようぐをつかおう

ちからだめしをしよう

Dコース みんなでちからをあわせよう

・各コースをクリアしたらシールをはる

・活動終了時に「元氣メダル」を授与する。



「からだ元気ランドへようこそ」に取り組んで

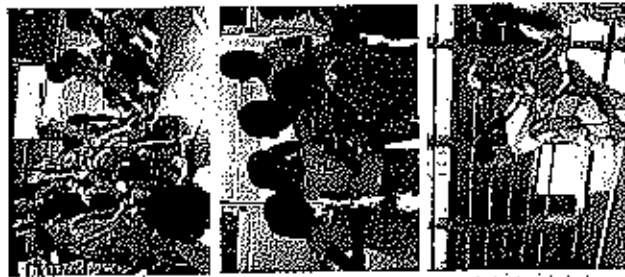
- 年長児の運動面での発達段階の理解
- 計画的な進め方によって見通しや目標が持てた
- 元気レンジャー等の元気ランドの設定や個人カードを持つての活動⇒子どもたちの意欲づけ
- カードやシールなどの視覚的な支援の有効性
- 自分から進んで活動する子どもの姿

- ◆事前の担任との打ち合わせ
- ◆運動の継続、体づくりの習慣化

③保小交流(子どもたちの交流)

25年度:1年生と、2月の交流1回
26年度:5年生、1年生と2回ずつ計4回実施
☆5年生

- 5月 一緒に遊ぼう
- 2月 手作り紙芝居の読み聞かせ
ふりかえり
- 年長児⇒小学校や小学生に対する安心感・期待感を持てた
- 5年生⇒最高学年への自覚を高め、園児と活動する楽しさを味わった
- ◆大人数での交流では、子どもたちの動きを把握しきれない部分があった。2月は2日間に分け、少人数で交流した。



絵本の読み聞かせに取り組んで

- 身近な自然への興味づけ
 - ・外遊びで木々の変化に気づく
 - ・図鑑等で自主的に調べる
 - ・生活の中での気づき
- 話を聴く意欲の向上
- ◆子どもにも、より身近な題材選び
- ◆話を聴く意欲を高めていく。
聴くことは大事だと感じさせたい。



☆1年生

10月 クイズ大会 学校たんけん
2月 昔遊び 授業の様子を見学

ふりかえり

- 年長児⇒就学に向けての期待を持った
- 1年生⇒年長児に声をかけ、一緒に関わることを楽しんだ
- 授業の様子を見学したことで、小学校の「学習」の雰囲気を知った
- ◆クイズの内容や言葉が難しい所あり
- ◆学校探検の時間を確保



④職員連携

☆保小連絡会

※担当者の決定（4月）

⇒今年度の取り組みの話し合い（5月）

- ・交流時は、その都度連絡を取り合い、計画・ふりかえり

※1年生の学習公開（6月）

- ・5校時の公開（国語、算数、道徳、生活）

- ・話し合い

※新1年生の就学前連絡会（2月）

※今年度の反省、来年度への引き継ぎ（3月）

17

☆小学校教員による

夏季保育参加(8月)

内容

- ・年長、年中、年少の子どものための保育に1日参加（水遊び、スライムづくり、絵巻、おやつ）

感想

- ・1日の流れを園児が分かっている、スムーズに次の行動に移り、安心感を持って活動していた。
- ・話を聴くとき、話をしてよいとよきのめりほりをつけ、集団を意識して保育されていた。
- ・トラブルがあったとき、その子と向き合い話を聞いて、納得して友だちの輪の中に入れてくれるようにかかわっていると感じ、すばらしいと思った。

18



☆保育参加後の意見交換会

内容

- ・保育参加の感想や、小学校へのつながりについて意見交換ふりかえり
- 小学校の職員が園児の様子や園の取り組みを知ることができた。
- 保育園と小学校の職員同士が、共に取り組んでいる内容の良さや課題を理解し合うことができた。
- 意見交換会で共通認識することができた。
- 保育園と小学校の先生同士が顔や名前が分かり、そして取り組んでいる内容のよさや課題を理解し合うことはとても大事なことで、何かあったときだけではなく、年間3回の連絡会、保育参加を継続していきたい。
- ◆継続していくこと、参加人数を増やす。
- ◆互恵性のある交流の実践。負担が多くならず、継続できるものにしていきたい。



19

27年度の様子（平成27年7月30日実施）

・14名参加

- ・主に年長のクラスに入って保育参加

- ・意見交換会実施

感想

- ・クラスや廊下等、園内の保育環境が整っていた。
- ・先生方の言葉かけが温かく、たくさんのほめ言葉があり、大切なことだと改めて感じた。
- ・「三つ浦み」の活動は、小学校でもやってみたいと思った。
- ・「人の話を最後までしっかり聞く」ということは小学校でも保育園でも大事にしていきたい。



20

⑤職員・保護者への発信

- ＜小学校職員向け＞
- ・スマイル通信配布
- ・研修報告（8月、2月）

＜保育園職員向け＞

- ・わくわくただより（保護者向けのお便り）を各クラスに配布
- ・わくわくタイムを公開
→活動への理解、協力
- ・研修報告（2月）



＜保護者向け＞

- ・研修について説明（4月）
- ・わくわくただより発行（わくわくタイムの様子、交流の様子、小学校の様子、小学校に向けてがんばろうコーナー）
- ・取り組みの報告（2月）
- ・玄関の掲示（小学校コーナー）

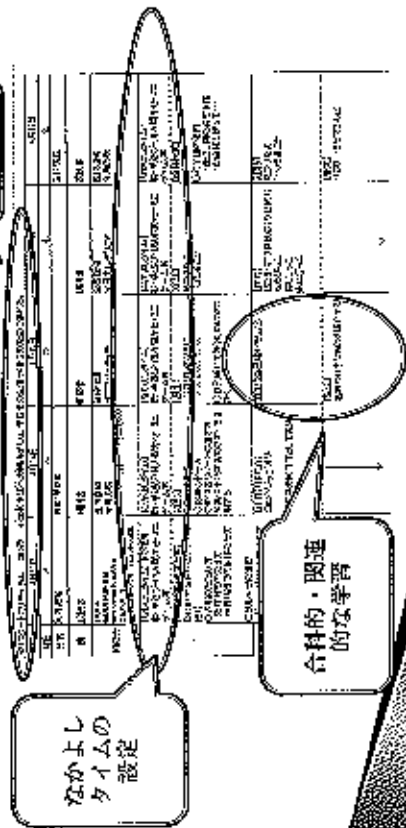
*保護者からの一言（アンケートより抜粋）

- ・わくわくタイムで箸の持ち方を習ってから家でも気をつけています。
- ・わくわく便りは、小学校の様子が分かってよかったです。



⑥スタートカリキュラムの改訂

- ・全体図の作成、月案・週案の見直し
- ・手遊び、掲示物等の具体的な事例を作成
- ・45分間の学習を弾力的に扱う
- ・朝の会や帰りの会の有効活用



今年度取り組んでみて

スタートカリキュラム

○なにかよしタイム
弾力的な時間の活用
読み聞かせ

- ・絵本
 - ・少し長めの物語
 - ・手遊び、歌（季節・行事）
 - ・山小屋いっけん
 - ・むすんでひらいて
 - ・後出しじやんけん
- 合科的、関連的な学習
- ・国語⇄図工、生活
 - ・生活⇄音楽、体育 等



25

○ふりかえり（子どもたちの様子等）

- ・ミニゲームや手遊びを通して、友達とのかかわりが楽しく自然にできて、スムーズな仲間づくりにつなげることができた。毎日、心待ちにしていた子もいた。
- ・保育園や幼稚園でもした事のある遊びやゲームをすることで、全員が抵抗なく活動できた。
- ・3週目以降も、席替えをした時等、折をみて活動をすること、継続して学級づくりに活かすことができた。
- ・3週目まで継続して行ったが、その後の取り組み方についても検討していきたい。

27

○なにかよしタイム

- 1週目 15分間
- 2週目 10分間
- 3週目 5分間

全体

- ・貨物列車
- ・体じやんけん
- ・ペア
- ・ねことねずみ
- ・どじょうによるよろ
- ・ぱっくんへび 等

徐々に短く



26

○合科的・関連的な学習

- ・国語⇄図工、生活
- ・生活⇄音楽、体育
- ・行事とのかかわり



28



- * 2年生と学校たんけん
(生活、図工、国語)
- ・ペアでたんけん
- ・ふりかえりカード
- ・発表



⑦保小連携計画の作成・改訂

- ・年度当初に、内容や日程を確認・作成

↓
毎年改訂する必要がある

- ・交流会は減って
も日常的な交流
を意図的にして
いく。

年度	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
実施計画												
実施状況												
備考												

5 成果と課題、今後に向けて

小学校

成果

- 26年度
 - ・保育園の行事や様子について知った
 - ・運動機能・友達との関わり・社会性等子どもの発達段階の理解
 - ・保育園の先生方の技を学んだ
 - ・子ども同士の交流の充実
 - ・小学校教員の保育参加を通しての相互理解
 - ・読み聞かせを継続することによる話を聴くことや自然への興味づけ
 - ・わくわくタイムの活動を通して、小学校を意識
 - ・わくわく日より、スマイル通信の発行
- 27年度
 - ・スタートカリキュラムの改訂
 - ・保小連携計画の作成

- 27年度
 - ☆研修で学んだことを生かして
 - ☆昨年度の様子が分かっている良さ
 - ☆スタートカリキュラムの実施

課題

26年度

- ・交流体制のあり方やねらいについて検討
- ・互惠性のある交流について
- ・職員間の共通理解が不十分などところがある
- ・話を聴くこと、体づくりは日々の積み重ね、継続

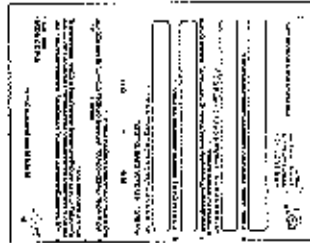
27年度

- ☆5年生との交流の継続を検討
- ☆小学校と保育園がお互いに常に意識して、つながりを持つようにする。(今どんなことをしているか等)
- ☆隣であることを活用し、日常的なかかわりを大切にしていく

保育園

成果

- *園の変勢
 - ・長期社会体験研修生を受け入れるにあたって
 - ・小学校への期待
 - *子どもの変容
 - ・わくわくタイムの回数を重ねることに
(研修生との関係、話を聴くこと、意欲的に取り組む、学校への期待)
 - *保育者の気づき
 - ・視覚教材の工夫
 - ・遊びと学習のちがいが
 - *保護者より
 - ・保護者アンケート実施
- 課題
- *交流のあり方



33

40

今後に向けて(小学校・保育園)

- *保育方針・教育方針の理解、連携のねらいを共通理解
- *交流のあり方やねらいを検討、互恵性があるとともに無理なく継続できる取り組み
- ・日常的なかかわりの場を大切に
- ・互いの施設を利用

*職員同士の連絡・相談を密に

34

卒園して今・・・

- *卒園児の子どもの姿
- *保護者の姿
 - ・安心と期待
 - ・保護者同士のつながり
- *保育園で出来ることを・・・
- *連携の在り方を考える

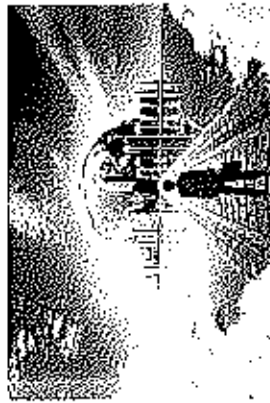


35

ご静聴ありがとうございました。



36



知的総合力を身に付けた

グローバルリーダーの育成

SGHの取組とICTを使ったアクティブラーニングの実践

鳥取西高等学校 川原 一浩

地域・世界とつながり、新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成

○ 知的総合力を高める、協同的な学びへの転換

「読書と小論文」

教科指導だけでは培うことができない知力や表現力を養いたい



「教員による課題図書を選定」

「生徒個人の取組」では

主体的な学びにならないのではないか？

教育方針

『文武併進』

社会のリーダーとなる人材の育成

深く学ぶ、自ら学ぶ

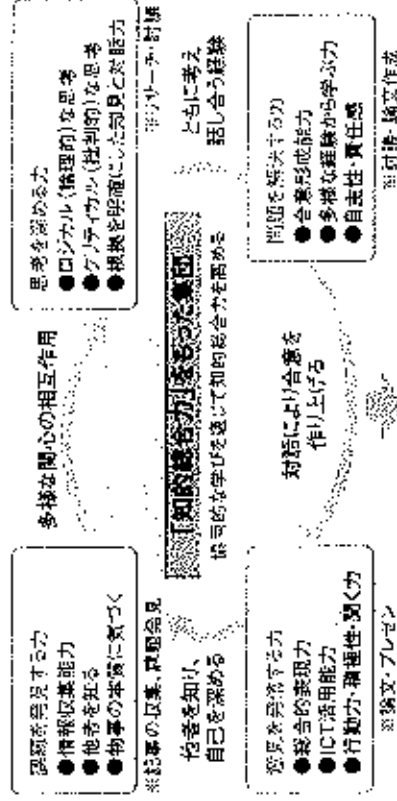
学力向上と高い進路目標の実現

良き社会人としての素養を育む

スポーツ・文化活動を充実



鳥取西高校「総合的な学習の時間」グランドデザイン



地域・世界とつながり、
新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成

○ 「知的総合力」の育成

従来の知識—辺倒からの脱却



課題の発見・思考深化・問題解決・意見発信



協同的な学び

5

地域・世界とつながり、
新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成

○ 平成24年度

- ・ アクティブ・ラーニング型授業へ改革するための研修
(学習理論研修)に参加

○ 平成25年度以降

- ・ アクティブ・ラーニング型授業の実践発表として、
「学びの文化祭」を開催
- ・ iPad mini を46台導入
- ・ 「思索と表現」初年度 (全学年縦割りの活動)

6

地域・世界とつながり、
新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成

○ 平成26年度

- ・ 文部科学省SGHアソシエイト校の指定
- ・ 総合的な学習の時間「思索と表現」2年目
全学年縦割り(1班6名のグループ)
- ・ iPad Air を48台導入 (現在、94台導入)
- ・ 豪州アデレード大学、韓国江原道春川高校との交流事業
- ・ 韓国・台湾への研修旅行を実施 (平成9年度より)
- ・ 鳥取県バーモント州青少年交流事業への参加

7

地域・世界とつながり、
新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成

○ 平成27年度

- ・ SGH指定校を受け、研究開発の成果を広く公開・共有
- ・ 総合的な学習の時間「思索と表現」3年目



8

国際原立高校高専連携の目標

グローバル化の中の地域創生

地域：世界とつながり新しい価値を創造するグローバルリーダーの育成

高専プロフェッショナルリーダーとは、知識や技術のコミュニティに活用し、多様な社会と関わりながら課題解決に貢献できる人材を育成することを目指す。グローバル化の中で新たな可能性や価値を見出し、社会で積極的に行動し、業績を上げる人材を育成することを目指す。

協力的・探究的な学び

探究的・協力的な学びとは、探究活動・探究活動を通じて、知識や技術のコミュニティに活用し、多様な社会と関わりながら課題解決に貢献できる人材を育成することを目指す。グローバル化の中で新たな可能性や価値を見出し、社会で積極的に行動し、業績を上げる人材を育成することを目指す。

海外交流

海外の大学・大学院との連携
・海外の大学・大学院との連携
・海外の大学・大学院との連携

国際化推進

国際化推進の推進
・国際化推進の推進
・国際化推進の推進

協力的・探究的な学び

協力的・探究的な学び
・協力的・探究的な学び
・協力的・探究的な学び

海外交流

海外交流の推進
・海外交流の推進
・海外交流の推進

国際化推進

国際化推進の推進
・国際化推進の推進
・国際化推進の推進

平成27年度「思索と表現」年間シラバス

学期	基礎力育成	思索の探求と論文作成	探究の進捗に合わせた小論文作成
10月	探究活動に関する講演会 統一テーマに関する書評を相対し、全校生徒対象の講演会を開催 夏休みに読書感想文を提出し、読書感想文コンテストを開催 実行委員会を作り、生徒主体の活動とする	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける
11月～1月	統一テーマに関する書評を相対し、全校生徒対象の講演会を開催 夏休みに読書感想文を提出し、読書感想文コンテストを開催 実行委員会を作り、生徒主体の活動とする	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける
春学期	探究活動に関する講演会 統一テーマに関する書評を相対し、全校生徒対象の講演会を開催 夏休みに読書感想文を提出し、読書感想文コンテストを開催 実行委員会を作り、生徒主体の活動とする	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける
1月	探究活動に関する講演会 統一テーマに関する書評を相対し、全校生徒対象の講演会を開催 夏休みに読書感想文を提出し、読書感想文コンテストを開催 実行委員会を作り、生徒主体の活動とする	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける

平成27年度「思索と表現」年間シラバス

学期	基礎力育成	思索の探求と論文作成	探究の進捗に合わせた小論文作成
4月	オリエンテーション 探究活動の基礎力を身につける	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける
5月・6月	探究活動の基礎力を身につける	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける
7月	探究活動の基礎力を身につける	目標：探究活動の基礎力を身につける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力を身につける

「思索と表現」の実際

- 1年生
要約する力、論理的思考力、批判的思考力を養成
フィールドワーク(7月)の実施
- 2・3年生
1班4人編成
(2年生:2人 3年生:2人)
探究活動、ポスターセッション、論文作成



「思索と表現」の実際

- 1年生 フィールドワーク(7月)の実際
(訪問先) 「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」
「旺方トレーディング」
「鳥取県教育委員会」
「鳥取県栽培漁業センター」
「ジャパン・ディスプレイ」
「大江ノ郷自然牧場」

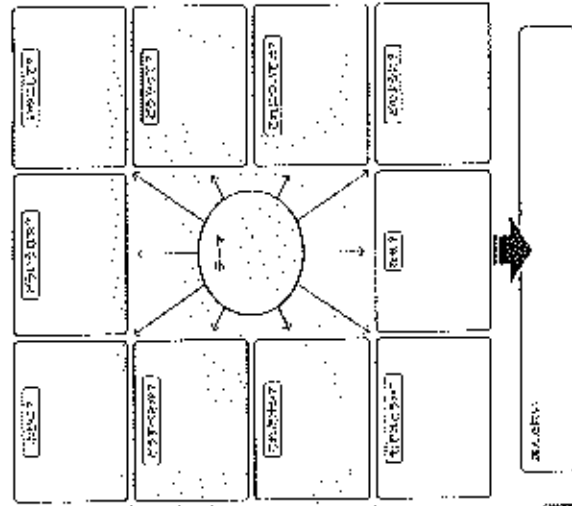
13

44

「思索と表現」の実際

- 1年生 フィールドワーク(7月)の実際
＜問いの立て方に着眼＞
① 業務内容のリサーチ
② 社会的な問題、地域・社会との関わりをリサーチ
⇒ KJ法、ワールドカフェ方式等を使い、
他者との関わりを意識した取り組み
③ 「論点作成マップ」を使った疑問点の洗い出し
④ 「吟味された問い = 質問事項」

14



論点作成マップ

15

「思索と表現」の実際

- 2. 3年生 ポスターセッション (場所) とりぎん文化会館 梨花ホール
152班が20分間のセッションを2回行う
(テーマ例) 「酵素DIETの効果検討」
「再生医療」
「鳥取の企業が生き残るには」
「ジェネリック医薬品を推進するために」
「赤ちゃんポストは必要か？」
「自衛隊と集団的自衛権」

16

「思索と表現」の実際

○ ポスターセッション



「思索と表現」の実際

○ 外国人教員による「英語」による授業

研究テーマに関するグローバルな課題について、事例紹介する。

(例) 乾燥地研究に関わる内容の場合、

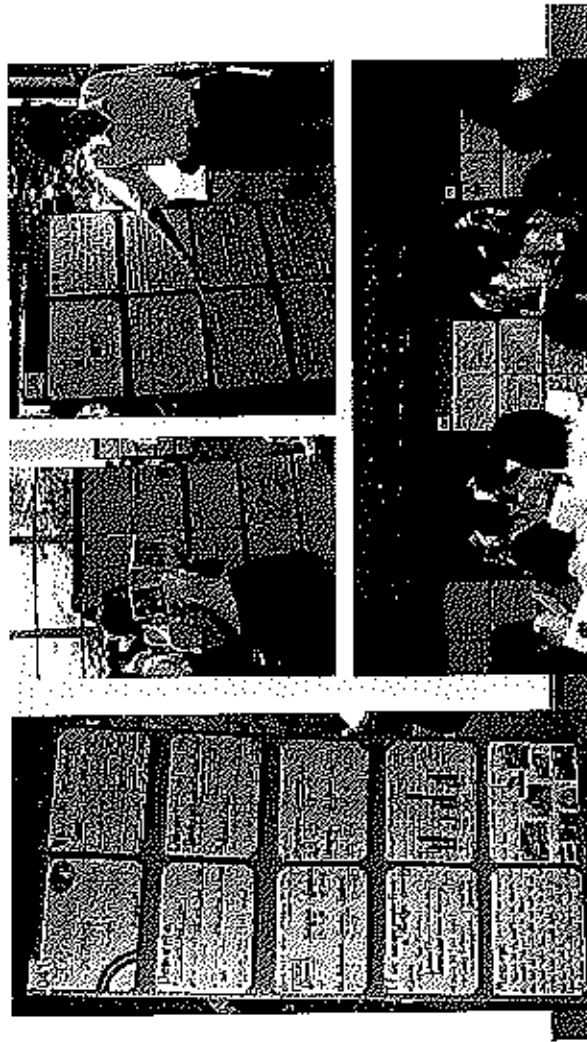
「乾燥地における人間の生活」

「乾燥地の可能性」など 現在の課題と今後の展望など。

○ SGHセミナーの開催

グローバルテーマに沿った講義・グループディスカッション・ワークショップ

(例) 国際支援、経済成長、女性の地位向上、貧困 など



ICTを使った協同的な学習事例

○ 1年「現代社会」

単元 現代の企業

指導計画 1時間：教科書通読、レクチャー

(全4時間) 2時間：「クラスマツチ」

(1か月後) 1か月後の株価の値動きを予想しよう

1時間：プレゼンテーション



ICTを使った協同的な学習事例

○ 1年「現代社会」

- ・ 単元に関する既有知識をグループで共有 ⇒ レクチャー
- ・ 株価の変動要因を確認
 - 株価が下がっている企業を予想し、
 - iPadを使って、値動きを確認 ⇒ なぜ値下がり？
- ・ CSR(企業の社会的責任)を果たしている会社を選んで「1か月後の株価の値動きを予想しよう」

21

46



ICTを使った協同的な学習事例

○ 1年「現代社会」

① 学習カード *本日は、西暦年ではなく、一日まで細かく読み上げることができるようになっています

現在株価 ⇒ 東武株価「東武鉄道株」 ⇒ 買値

1) 500株 ()円 買: 95,000円

② 有利年次値 ()円

③ 東武株に対する有利年次値の計算 ()%

学習カードから、株価の動きをどうするか、小グループで話し合い、発表を促すこと。

④ 本日は(本日の株価である)東武株の買値 *本日は、3月1日から、予定はなし。

現在株価 ⇒ 東武株価「東武鉄道株」 ⇒ 買値

()年()月()日 買: 35,000円

()年()月()日 買

()年()月()日 買

発表内容に関するコメント

⑤ ライバル企業との競争力向上の経緯の発表と考察



○ 1年「現代社会」

ICTを使った協同的な学習事例

ICTを使った協同的な学習事例

○ 1年「現代社会」

クラスマッチ!

1か月後の株価の値動きを予想し、

株価上昇率No. 1を決定しよう

⇒ 株式会社で、株を上場していないのはなぜ?

⇒ 株価変動の要因は?

⇒ 国内外の政治・経済情勢や政策の概観の必要性

⇒ メディア・リテラシーに対する理解と習得

22

24

23

ICTを使った協同的な学習事例

○ 1年「現代社会」

＜今後の展開＞

これまでに報道された企業買収や合併の動きを追うことで、株式会社の望ましい在り方を、ワールドカフェ方式で、具体的に・現実的に考察させたい。



25

47

ICTを使った協同的な学習事例

○ 2年「コミュニケーション英語Ⅱ」

授業者 松下奈弥 教諭

単元 LESSON 3 Nature Technology

指導計画 4時間 教科書読解、章末問題

(全13時間) 2時間 追加読み物・リサーチ

6時間 プレゼンテーション準備

1時間 プレゼンテーション

ICTを使った協同的な学習事例

○ 2年「コミュニケーション英語Ⅱ」

・ リサーチ ⇒ 表現

読解 プレゼンテーション

・ リサーチ内容を、他者の視点を取り入れながら、分析・活用

- ① 他者の発表を批判的に聞き
- ② 「調べたものを発表」からの脱却
- ③ 相互評価

27

28

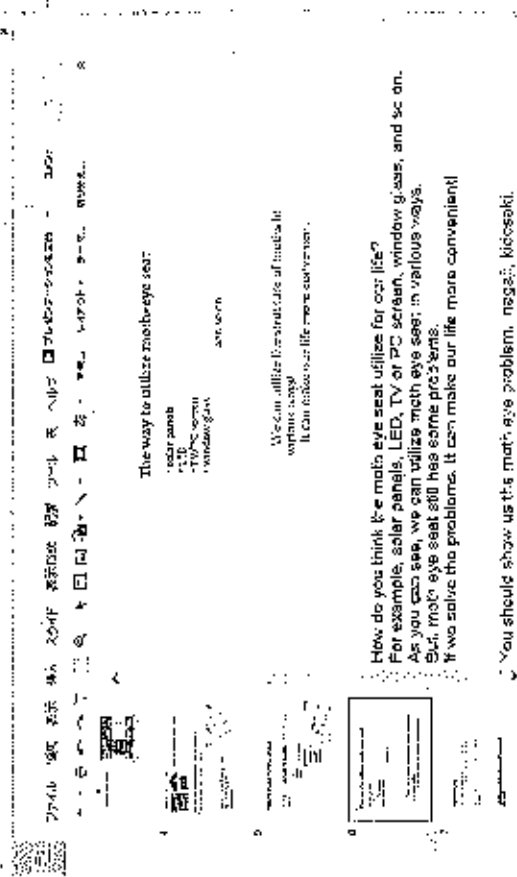
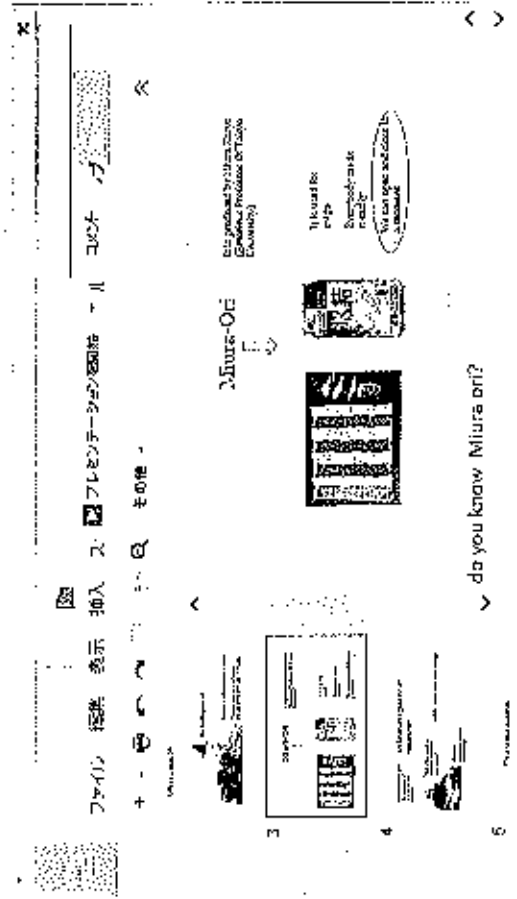
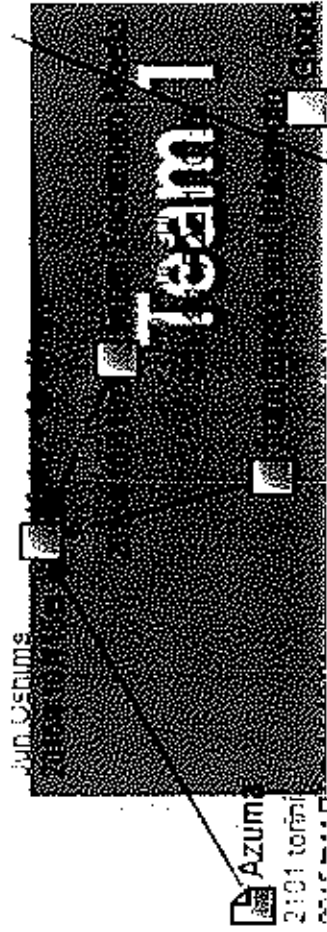
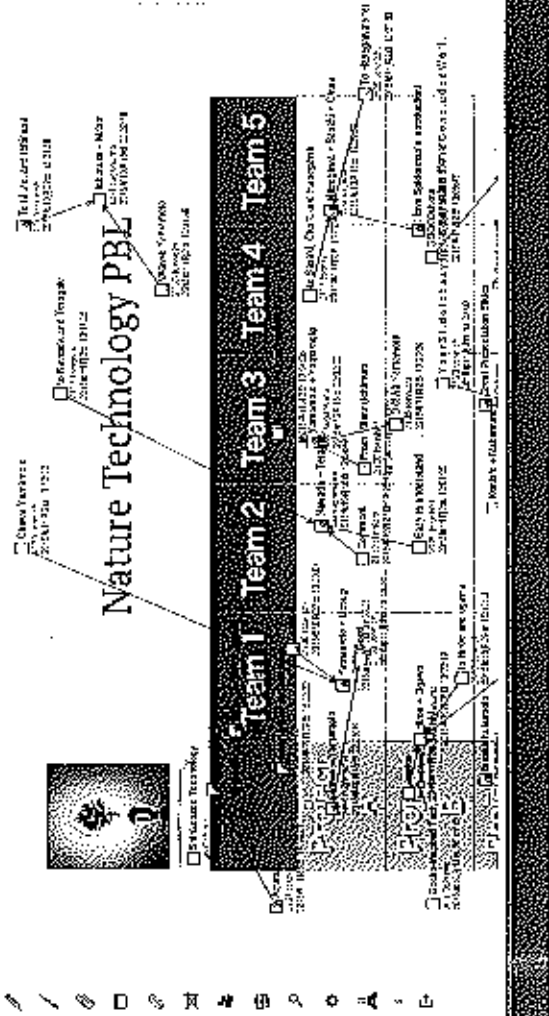
28

ICTを使った協同的な学習事例

○ 2年「コミュニケーション英語Ⅱ」

KF (Knowledge Forum) を活用した学び

- ・ トロント大学でスカルダリア博士らが開発した、コンピュータを介した知識構築と協調学習を支援するためのシステム
- ・ インターネットがつながる場所なら、どこでも課題に対して生徒同士がコメントや意見を書きあうことができ、自らの考えの整理や深化が期待できる。





ICTを使った協同的な学習事例

○ 2年「コミュニケーション英語Ⅱ」

作成したデータを、クラウド上で共有でき、プレゼンの中身(データ、英語表現など)について、友達からコメントが付けられる。

⇒ ① 学習意欲の向上

② 他者との比較・分析が容易になることで自身のスライドを客観視でき、より良い学習効果が期待できる。

34

課題

- 協同学習は本校の生徒にとって有効であるが、科目によって取り組みに差があり、有効な手法として共有が十分でない。
- 既有知識を使って課題を見出したり、解決の方向性を探ろうとする態度を養うには、様々な人と議論したり、思索したりすること(協同的な学び)が必要。
- 国際社会の現実に触れたり、グローバル社会に対する理解を促進するには、「外の活動」を体験することが必要。

36

From

Read Authors Connections Logs Attachments

I think your animation is so funny. XD

And your opinion is good idea.

I think it's better to make your word big size in your slide.

from

Read Authors Connections Logs Attachments

It is easy to understand your presentation.

you use same pictures as mine.

so, I think your presentation is like mine

; am looking forward to it.

33

49



ICTを使った協同的な学習事例

○ 2年「コミュニケーション英語Ⅱ」

自分の意見や考えを、相手に英語(書き言葉)で伝えるため、どこまで表現すればよいか(範囲)どのような単語を使えばよいか(選択)を推し量るようになる。

⇒ 真のコミュニケーション能力を養うことができる。

35

最後に

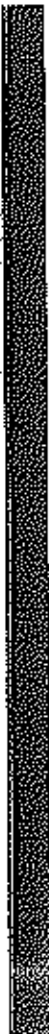
○ アクティブラーニングを充実させるために、ただ一つの要件
自由度の高さ
(「主体的・能動的」を支える道具は、どれだけ使いやすかが大切)



忍者

生徒には、議論や解決手段、解決策等に気づくまで、じっくり考えさせ、状況に応じて指導を与える

○ 教員に必要な「六者」
・学者 ・易者 ・芸者
・役者 ・医者

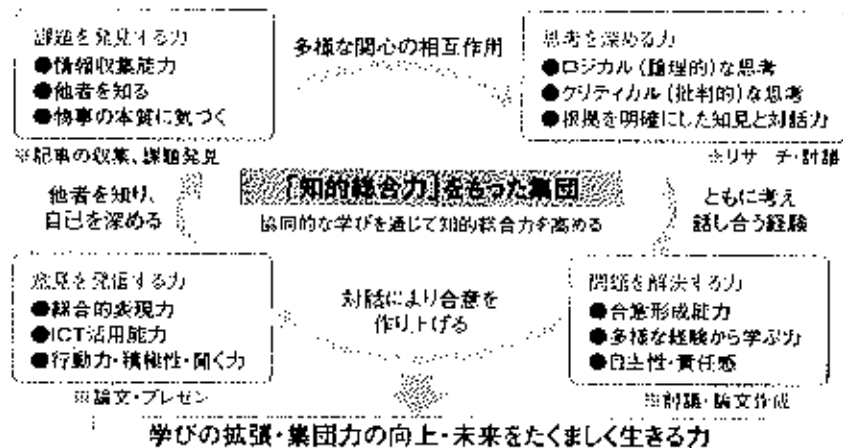


平成27年度 鳥取県教育研究大会

〈分科会 I〉 知的総合力を身に付けたグローバルリーダーの育成
SGHの取組とICTを使ったアクティブラーニングの実際

鳥取県立鳥取西高等学校
川原 一浩

(1) 鳥取西高等学校「総合的な学習の時間」グランドデザイン



(2) SGH (スーパー・グローバル・ハイスクール) 全体概要

鳥取県立鳥取西高等学校SGH概要

地域・世界とつながり新しい価値を創造するグローバル・リーダーの育成

鳥取西グローバル・リーダーとは、知的総合力を身に付け、地域や世界のコミュニティに主体的に参画し、多様な他者と協同して課題解決に向けて探究するとともに、グローバルな視点で新たな可能性や価値を見出し、社会で積極的に行動・実践できる人材。

グローバル化の中の地域創生

協働型プロジェクト学習「思索と表現」

▶ 全学年生徒で実施、縦割り制人

A 「グローバル社会における豊かな地域づくり」
「新緑町(鳥取)の村おこし運動」等

B 「持続可能な社会と環境」
「鳥取砂丘から生れた数億地球者へ(世界へ)」等

C 「グローバル化の中の人間と科学」
「世界をリードする鳥取の技術」
- センサ技術、水温暖房...等

協働的・探究的な学びと ICT の活用
▶ 協同学習・探究学習の深化
▶ 知識構築を支援する新しいオンラインシステム「Knoxledge Forum」の活用(鳥取大学と連携)
▶ タブレット型端末による探究的活動の充実発展

協働的・探究的な学び

英願の授業での探究・表現活動
▶ コミュニケーション力の育成
・「Can-Doリスト」の活用
▶ 思考力・探究力の育成
・「E・S・L(英語学習者社会変革型)的アプローチ」による授業
・「E・S・L(英語学習者社会変革型)」

課題研究

体験的活動の充実

▶ 直接体験による課題研究の深化
・鳥取大学、鳥取大学教養院研究センター
・グローバル化による国際交流の促進、E

海外の大学・高校との連携
▶ アダレイト大学(常州)
・「地域の活性化」に関するテーマについて
・生涯学習交流と ICT を活用した意見交換
▶ 春川高校(韓国江津道、本校と姉妹校提携)
・「東アジアの地域の中」に関するテーマ
・テーマに ICT を活用した国際研究

海外交流

国際・異文化体験
▶ 台湾研修旅行(第2学年)
・鳥取県地域創生フォーラム
▶ 鳥取県「環日本海交流」事業への参加
・地域創生の国際化に向けた交流促進
▶ 春川高校との姉妹校相互訪問
・交流促進、オンライン交流

年次計画 H26 SGHアンソエイトとしての取組	H27~H28 ICT授業実践・国内外大学企業連携	H29 中間評価	H30 改善	H31 成果普及
-----------------------------	------------------------------	-------------	-----------	-------------

(3) 平成27年度 「思索と表現」年間シラバス

		1 学年	2 学年	3 学年
前 期		基礎力養成(クラス活動)	縦割り班活動	
		目標：批判的思考力の基礎を学ぶ	目標：ポスター作製の主体となる	目標：班をリードし、論文作成の主体となる
	4月	オリエンテーション 協同的な学びを体験	テーマの遂行と、5月6月の研究計画を立てる 中テーマ、小テーマに沿った関連資料の収集・探究活動	
	5月・6月	課題文の読みの手法	探究活動(必要に応じてICTを使った交流活動やフィールドワークを行う。鳥取大学等の外部連携者による助言を受ける。)	
	7月	批判的思考の基礎力養成月間 ポスターセッションの見学	ポスター作製集中月間 ポスターセッションの実施 広く公開し、外部連携者による評価を受ける	論文作成集中月間
後 期		基礎力充実	思索の深化と論文作成	個々の進路に合わせた 小論文作成
		目標：要約する力をつける	目標：論文作成の基礎力をつける	目標：大学入試レベルの小論文を書くための力をつける
	10月	「著者と語る」講演会 統一テーマに関する若者を招いて、全校生徒対象の講演会を実施 事前に関連資料を読み、問題意識をもって講演を聴く 実行委員会を作り、生徒主体の活動とする		
	11月 ～1月	テーマ選択 → 書籍を読み、 要約 → 共有	論文の書き方を学ぶ ⇒ グループで共有	※12月までの活動
	冬季休業	課題図書に関するレポート	課題図書に関する論文作成	
1月	次年度の分野希望調査			

テーマ「タブレット端末を活用した学びあいのある授業づくり」

県立智頭農林高等学校

武部 拓郎

米山 純子

はじめに

本校は、「一人ひとりの生徒を大切に」を教育の根幹に置き、多様な生徒一人ひとりにとって「わかる授業」を展開するための授業実践、研修を行い、生徒の学力の向上を図っている。これまで特別支援の観点から生徒を見取る視点を取り入れ、学びの中に生じる生徒一人ひとりの意欲や自己肯定感といった情意と学びの実態を把握するという生徒理解を深める努力を行ってきた。こうして、授業を見る観点が、教師の教え方から生徒の見取りへとシフトし、要支援生徒を含めたすべての生徒が、能動的に学びに参加し、能力を高めていくには、一斉授業の形態による生徒の受動的な学習活動では、不十分であることが明らかとなった。

そうした素地の上に、協働学習の理念とタブレット端末という道具が導入・整備されたことにより、さらなる授業改革に向けた展望が開けたといえる。

今回、生徒が自主的に学び、すべての生徒が互いに支援し協力しあいながら高まりあう「学びあいのある授業」を導入するために、タブレット端末をどのように活用できるのかを報告する。

学校の体制

本校がタブレット端末を活用した学びあいのある授業づくりに取り組むこととなった経過と取り組みを支える体制を図1に示す。

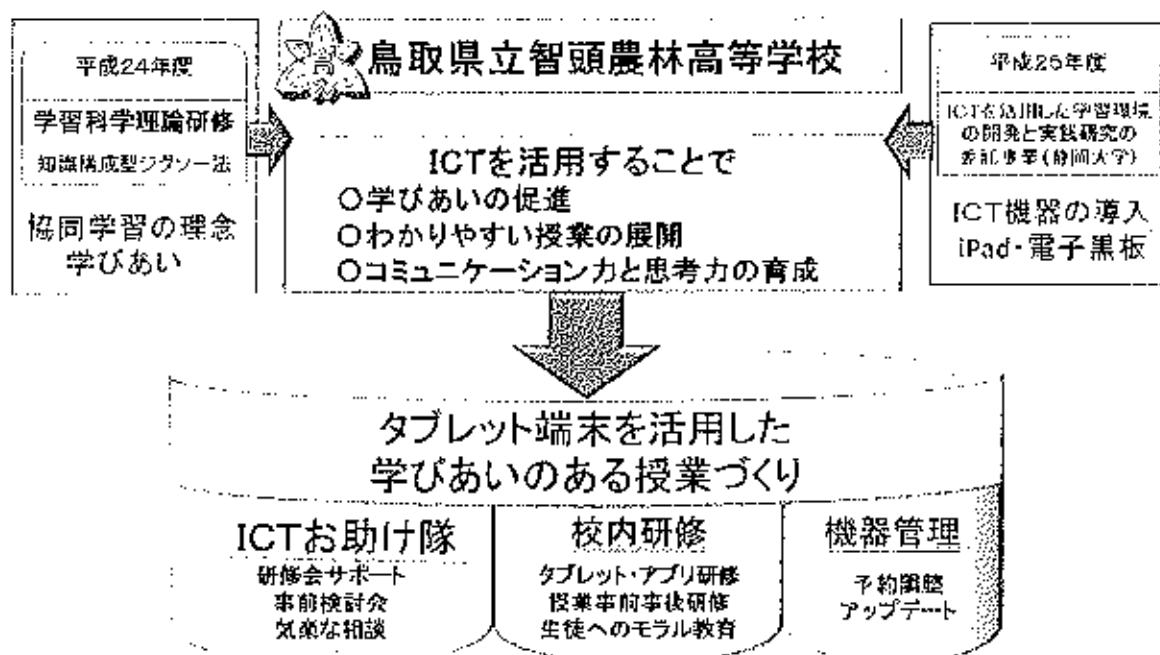


図1 タブレット端末を活用した学びあいのある授業づくりの体制

平成24年度、県の主催する学習科学理論研修会を受講し、協働学習法の一つである知

識構成型ジグソー法による授業改革を進めた。その後様々な手法を試みつつ「学びあいのある授業」の導入を図っている。昨年度からは、岡山大学教師教育開発センターの高旗浩志教授に来校いただき協同学習の理念を学びつつ、職員が相互研鑽に努めている。

一方、平成25・26年度に、県と静岡大学との委託事業で「ICTを利用した学習環境の開発と実践研究」が行われ、研究校として鳥取西高等学校と本校が指定された。それに伴い、平成25年9月にiPad2が27台、iPad miniが5台と実物投影機2台、電子黒板（液晶型・移動可能）2台、iPadの管理のためにiBook1台、充電カートが導入された。あわせて、電子黒板が設置された2つの教室にWi-Fi環境が整えられた。

こうしたICT機器の設置と環境整備は、生徒がICTを学びの道具としてどのように活用できるかを実践していくものであり、タブレット型端末を活用することで、生徒間の学びあいを促進させ、よりわかりやすい授業を構成し、生徒のコミュニケーション能力と思考力を育成することに主眼を置きつつ授業づくりを進めていくためである。

以上のような経過と目的でタブレット端末を活用した学びあいのある授業づくりを進めているが、各教師の活動を「校内研修」「機器管理」「ICTお助け隊」の3つの柱で支えている。「校内研修」により、タブレット端末の使用方法やアプリケーションソフトの紹介の研修、授業事前事後研修、および生徒へのモラル教育方法の研修が職員の技能と意識を高めている。また、ICT機器の予約調整やアプリケーションソフトのアップデートといった「機器管理」を総務部が中心として行い、生徒や教師が使いやすい環境づくりを心掛けている。こうした「校内研修」と「機器管理」は本校職員の有志で結成した「ICTお助け隊」の活動をとおして補われている。正式な研修会ではなく、気楽な相談を通して「ICTお助け隊」で研修した内容を多くの先生へ情報発信している。

授業づくりの流れ

前述した学校体制の下で、各教師は生徒が主体的・自主的に学ぶ授業づくりを意識していくことになる。各教科の特性としてICTや学びあいを取り入れづらい場合もあるが、各学期に1回は活用できないかを考慮し、単元目標と生徒に身につけさせたい力の育成にICTと学びあいが有効と考えられた場合、授業のデザイン案を検討していく。

授業実践の前後で授業者だけでなく職員間で情報交換しつつ、よりよい授業づくりを進めていく。その流れの模式図を図2に示す。

- ①授業者が授業のイメージ・デザイン案を示す。
- ②学びあいの活動が授業展開に組み込める場合、学習指導委員会や教科会で有効な手法等の検討を行う。
- ③学習意欲を喚起し、視覚に訴えるわかりやすい教材提供やコミュニケーションの誘発による学びあいの活性化に、タブレット端末やアプリケーションソフトが活用できないかICTお助け隊と総務部を含めて検討を行う。
- ④授業実践は、出来る限り公開とし、参観者は事前研修で共有した授業展開の視点や授業者が目指す生徒像等を意識しつつ参観する。
- ⑤授業実践後、事後研修会を開く。

授業者、参観者は「学びあい」の形式で意見交換を行い、各自が次回の実践に役立つポイントを明確にしていく。

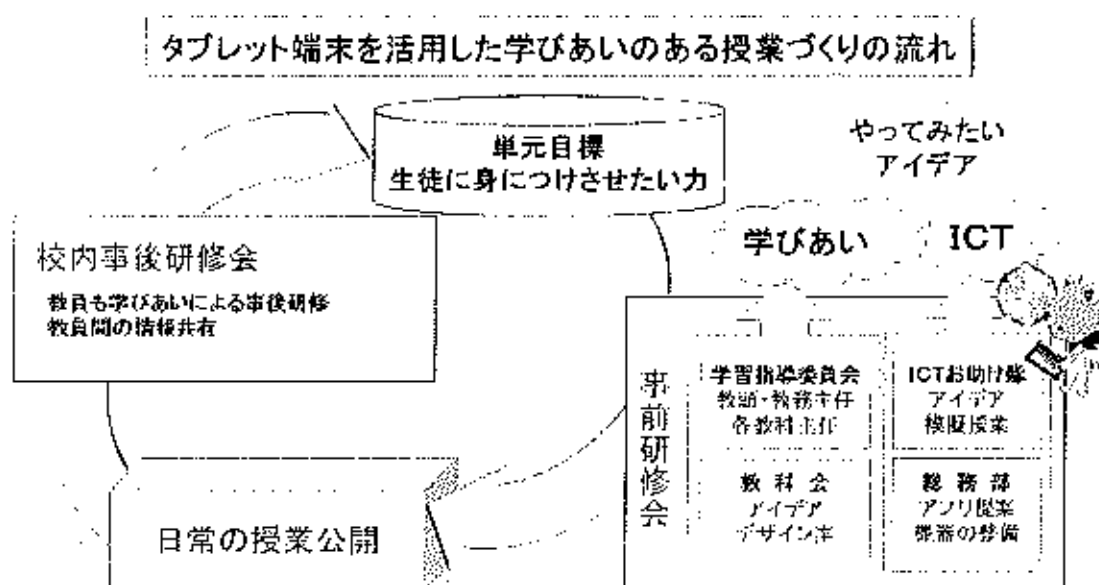


図2 授業づくりの流れ

授業での活用状況・活用例

ICT（特にタブレット端末）を活用した学習内容（教科）を以下に列挙する。

- インターネットを活用して、各種のデータを調べる「調べ学習」。(全教科)
- マット運動やダンスの場面を動画で保存し、グループ内で振り返りを行う。(保健体育)
- 調理実習のレシピとして使用。ロールケーキの巻き方を動画で保存し各自繰り返し見る。
調理手順の並べ替え、発表。
ドレスのデザイン画の作成。
旬の食材アプリを活用したお弁当献立の作成。
- 1日の栄養計算。(家庭科)
- 季節の言葉クイズづくり。
詩を作成し、その情景が伝わるような背景をデザイン。
漢字ドリル練習。(国語科)
- トマトの接ぎ木手順をプレゼンアプリで作成、発表。
植物の病気についてまとめる(農業科)
- 地域にある歴史建造物へ見学行き撮影・取材、その後、観光客向けを想定しプレゼン作成。
(地歴公民科)
- 住宅デザイン3D。(リビングデザイン)
- オリジナルデジタル教材の活用。(被服製作・測量)
- 学校祭のクラス発表で活用。ドレスの製作過程をスクリーンで流す。(被服製作)
- 過去の調査データを地図アプリにまとめて傾向を把握。(課題研究)
- 唱歌「ふるさと」の手話合唱を動画撮影の上、繰り返し再生して学ぶ。(音楽)
- 校内ネットワークに保存した画像や音声、動画、課題を協同学習で閲覧、掲示。(全教科)

○各種検定（英語、漢字検定）のドリル学習（放課後指導）

成果と課題

協同学習の理念を取り入れた授業改革により、少しずつではあるが教員各自の固定観念が見直され、従来の一斉授業から生徒同士の「学びあい」を中心に据えた授業展開への姿容が見られ始めた。その際、生徒が「わからない」「教えて」と言いやすい環境を整え、共に気付き、わかり合い、課題解決に向けた意欲を喚起させるうえで、タブレット端末の活用は有意に働いたと言える。

具体的には、生徒にとって、一人ひとりがタブレット端末を持って学習することにより個々の生徒の能力に沿った作業の進行が出来、作業が滞った時でも生徒自身が繰り返し確認しながら進行していく場面がみられた。また、画像や動画による説明や数値のグラフ化など視覚による理解の促進もみられた。さらにインタラクティブなアプリケーションソフトの操作は学習意欲の喚起につながった。

すべての生徒が、共に学び共に高まり合うユニバーサルデザインの学習活動を展開する可能性をタブレット端末は拓いたと言える。

教員としても、授業デザインにICTと学びあいを取り入れるために、教科を超えた協働の授業づくりが生まれ、事前事後研修会の中では教員間の学びあいの深まりが見られ始めた。

課題としては、ICTと学びあいの導入時から教員間でも不安視されていたことがあげられる。社会的にも問題視されている肖像権や著作権侵害、インターネットの誤使用等にかかわる規範遵守とモラルの醸成が今後も求められる。若干名ではあるがタブレット端末の操作に苦手意識を抱く生徒もいる。さらには、言語による意思伝達を促進させるためにICTをどのように有効活用していくか現在も模索中である。

教員にとっても日進月歩するデジタル技術の習得や従来の授業形態からの脱却のために自己研修を続けていく必要がある。さらに、教科単元や学校活動の中で「どこで」「どのように」タブレット端末と学びあいを活用するのか、その適する部分を見極める力を高めていくことが必修となる。また、教員の自主研修には技術的な面で限界があり、支援員の配置も今後要望していく必要がある。

おわりに

本校は、「一人ひとりの生徒を大切に」を教育の根幹に置き、「絶対に一人も見捨ててはいけない」を求め続ける教育に向けて授業改革を行っている。そうした「考え方」に基づく授業からこそ、クラスに「学ぶよろこび」が誘発され、生徒個人に「自分にもできる」という学ぶ意欲が生まれるとし、その手法として「学びあい」を取り入れた。さらに、タブレット型端末と電子黒板を活用することで、情報を的確に他者へ伝え、共有する能力を培う試みを進めている。

「ICTを活用した学びあい」の活動から、問題解決の糸口や高度な学習への意欲が生じることを経験した生徒たちは、一斉学習では得られない結果を実感しており、ICTを活用した授業では生徒の理解度は高く、学び意欲も高まっている。

しかし、生徒が個人的に学習計画を立て、学びを進めていく意欲が非常に薄く、生徒の自主性と主体性をさらに培う必要がうかがえる。学び続ける意欲を育てるために、まず自己肯定感の醸成が必要と思われる。

学力向上に向けた学びあいのある学習の導入は、まだ十分とは言えないが、学びあいのある学習がよりわかりやすい授業となっていることは、生徒のアンケート結果からも顕現し始めている。

私達は、生徒各自が自主的な学習者となり、さらに、人に支援や協力を求めることで、自分一人の力ではできなかったことを実現させる能力を育てていきたいと思う。そのためにも、教員が、生徒は有能であり、「みんなのできる」ことがたくさんあると認識し、それを生徒たちに発信していきたい。

平成27年度鳥取県教育研究大会

分科会 I

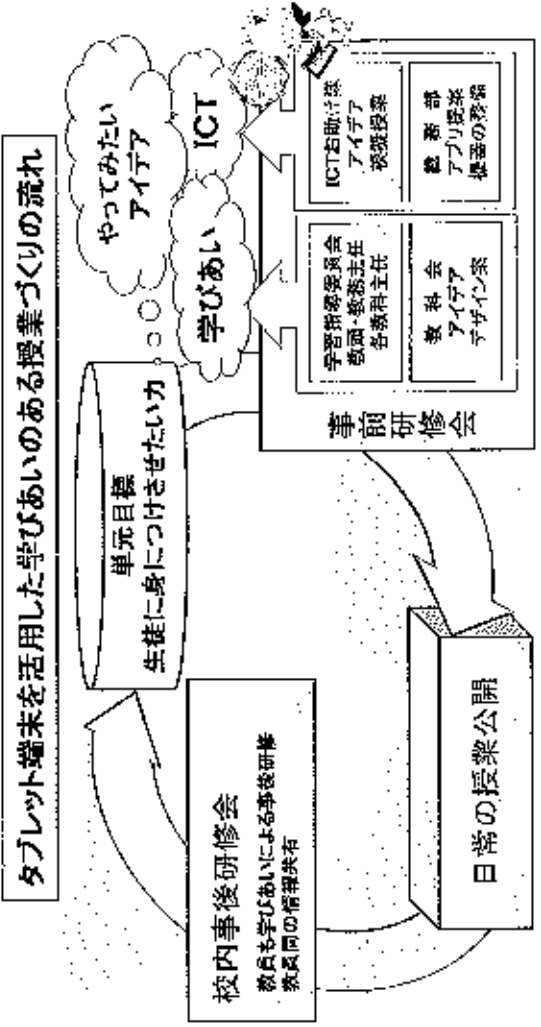
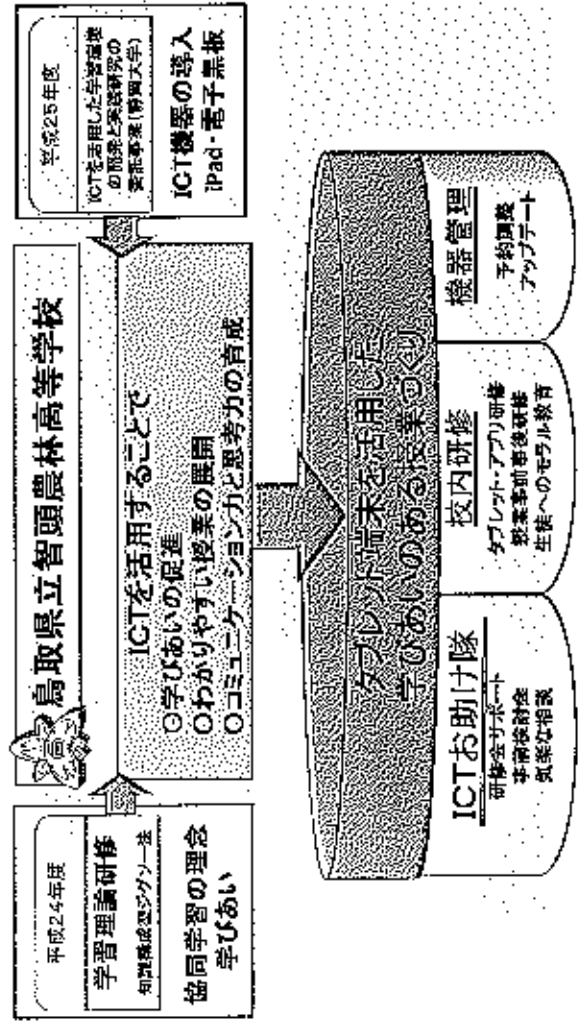
タブレット端末を活用した 学びあいのある授業づくり



鳥取県立智頭農林高等学校

目次

1. 本校の体制
2. 授業づくりの流れ
3. 実践例
4. 成果と課題





今回使用したアプリ『ロイロノート』



写真、動画、テキスト、手書きなどのカードを線でつなぐだけで簡単に伝え合い、発表することができる。
『トンネル』という機能があり、作成したカードを送り合って共有できる。

http://loilo.tv/jp/product/loilo_edu_note

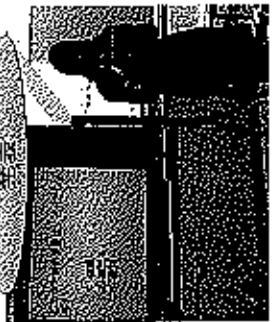
写真カード作り



カードをつなぐ



発表



単元の構成とねらい

【ステップ①】
教科書教材
「季節の言葉と出会う」
（黒まどか）を読み、
①グループ法などで
内容読解を行う。

【ステップ②】
季節の言葉について調べ、
クイズ形式でまとめる。
（調べ学習）

【ステップ③】
出来上がったクイズを
他クラスに出題する。
（プレゼンテーション）

タブレット端末の活用

テキストの
読解力

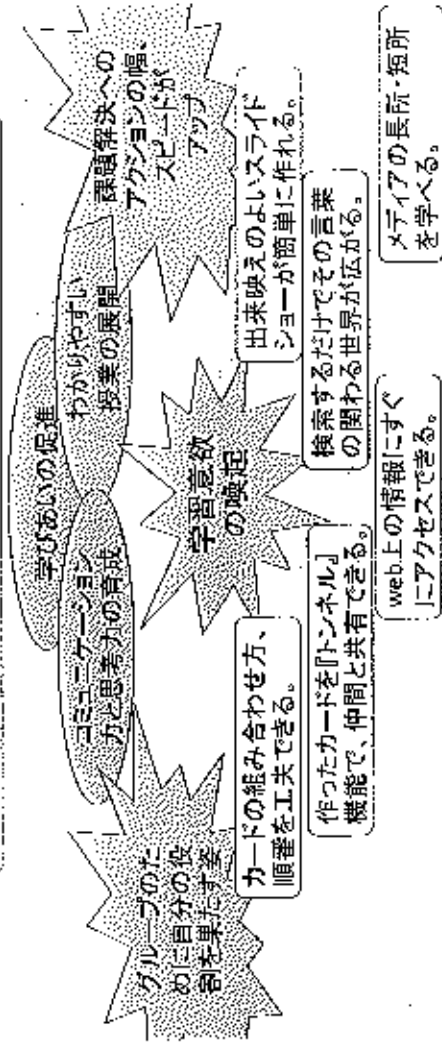
グループ学習による学びの深まり・思考力の育成

グループ学習によるコミュニケーション力の育成

プレゼンテーションによる表現力の育成

図書資料の活用

タブレット端末(アプリ『ロイロノート』)活用のメリット



タブレット端末が学びあいを促すツールとして機能

ICTを活用した学びあいのある授業づくりの
成果と課題

成 果		課 題
<p><u>生徒</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に沿った作業進行 ・視覚による理解の促進 ・アプリ操作による意欲の喚起 ・ユニバーサルデザイン <p><u>教員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科を超えた協働の授業づくり ・教員間の学びあいの深まり 	<p><u>生徒</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範遵守とモラルの醸成 ・苦手意識の克服 ・言語による意思伝達の促進 <p><u>教員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己研修の促進 ・適する部分を見極める力 	





分科会Ⅱ

会場

セミナールーム 3

千代南中学校区学級づくり・人間関係づくり

発表者 千代南中学校 鈴木洋一郎
佐治小学校 西尾 義男
用瀬小学校 米澤 伯典

1 はじめに（校区紹介）

2 千代南中学校

①千代南中学校の「学級力向上プロジェクト」

②いじめ防止の取り組み

③「仲間づくり」と「ひとりづくり」

3 佐治小学校

①自治力向上に向けて

○運動会練習（縦割り班活動）

○竹馬集会（縦割り班活動）

○雪遊び集会

②自尊感情を高めるため

○スマイル大作戦

4 用瀬小学校

①自治力向上に向けて

○子ども集会（委員会活動）

②自尊感情を高めるため

○スマイル月間

○一斉道徳授業

○スマイルポスト

5 おわりに（成果と課題）

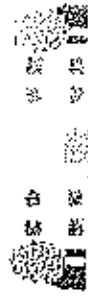
平成27年度

特別支援教育体制整備と連携の推進 ～琴浦町連携チームによる取組～

琴浦町教育委員会



琴浦町の学校概要



▶ 小学校 5校

平成26年度統合により聖郷小学校、船上小学が閉校

- ▶ 在籍者 880名 特別支援学級在籍者 43名 (学級数15)

通級指導を受けている者 26名

※まなび(八幡小)レインボー ことば

▶ 中学校 2校

- ▶ 在籍者 507名

特別支援学級在籍者 24名 (学級数7)

通級指導を受けている者 6名

琴浦町特別支援教育体制整備の 推進にかかる現状と課題

【現状】

- ▶ 発達障がいを持つ児童生徒に対する、通常学級での指導や中学年以降の二次的な障がいへの対応、学級経営に困難さを持っている。
- ▶ 町や各学校コーディネーターの活用によって校内支援・相談体制が整いつつある。

【課題】

- ▶ 保小や連携や特別支援教育に関する研修の充実、保護者への理解啓発。
- ▶ 校内支援体制の更なる整備、個別の教育支援計画、指導計画を活用した支援、早期からの支援や相談の充実。



琴浦町の取組 1

特別支援教育活動コーディネーターの配置

ねらい：町内各学校の支援体制の充実

特別支援教育主任との連携

- ▶ 学校訪問、相談 (先生、児童生徒)
- ▶ 支援会議への参加
- ▶ 保育園訪問 (4歳児訪問、5歳児訪問等)
- ▶ 琴浦町内職員研修、校内研修への参画

子どもたちの笑顔と安心のために

～児童、生徒の発達支援活動の推進～
 児童、生徒の発達支援活動の推進に努め、
 児童、生徒の笑顔と安心を実現することを目指します。

先生方、ごめんに相談ください

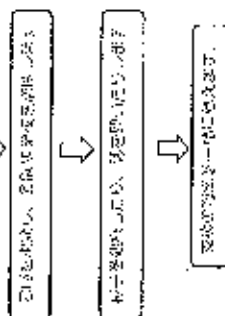


【児童発達支援センター】

- ・児童発達支援センターは、児童の発達支援を行う。
- ・児童発達支援センターは、児童の発達支援を行う。
- ・児童発達支援センターは、児童の発達支援を行う。
- ・児童発達支援センターは、児童の発達支援を行う。

5

まずはご連絡ください
 教育委員会 教育総務課
 特別支援教育推進センターコーディネーター
 阪本 尚美
 電話：52-1160
 ファクシミリ：52-1122



特別支援教育連携協議会の組織

《琴浦町行政》

教育総務課（町特別支援教育活動コーディネーター、指導主事（事務局））
 町民生活課（子育て応援室）健康対策課（母子保健担当）福祉課（障がい福祉）
 《学校》

特別支援教育担当校長、特別支援教育コーディネーター代表

《保育園》

代表園長（発達支援コーディネーター）

《専門職》

L.D等専門員、通報指導教室担当

《部会》

学校関係者協議会（5名）事務局：教育総務課
 学校二：コーディネーター代表、1、2年等9校、通級指導教室

行政関係部会（5名）事務局：教育総務課
 行政関係：地区協議会、福祉課

《関係組織》 町校長会、園長会、特別支援教育主任会、通級指導委員会

琴浦町の取組 2

特別支援教育連携協議会の設置、運用

- ▶ 設置のねらい
 - (1) 琴浦町における特別支援教育の推進に関する共通認識を高める。
 - (2) 特別な支援が必要な乳幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに
 応じた適切な支援や教育の実施に向けて支援体制の整備を図る。
- ▶ 主な取組の計画
 - (1) 保育園（こども園）及び学校の特別支援教育体制整備に関すること。
 - (2) 特別支援教育における関係機関との連携及び連絡調整に関すること。
 - (3) 特別支援教育に関わる教職員・保育士の資質向上に関すること。
 - (4) 特別支援教育の理解啓発に関すること。
 - (5) その他目的を達成するために必要な事項。

特別支援教育連携協議会

【平成26年度の成果】

- ◎ 各部会による検討協議、町校長会、園長会等との連携、情報共有
- ▶ 琴浦町特別支援教育マップの作成【別紙資料】
- ▶ 琴浦町行政機関連携事業（子どもの支援関係）図作成【別紙資料】
- ▶ 保育園、小中学校引継ぎ方法の確認資料作成、引継ぎ資料の改訂版配信

【平成27年度の計画】

- ▶ 保護者相談用ことららマップ
- ▶ 保護者啓発、相談・支援の体制作り（幼児期を中心に）

8

琴浦町の取組 3 理解・啓発

平成26年度町内教職員に対する特別支援教育に関する研修会

「社会性の支援～ソーシャルスキルって～」 8月20日開催

「発達の子の気になる子の感情の対処法～らくらく生活をめざして～」 8月27日開催

講師 阪本清美先生（鳥取大学医学部臨床心理学専攻）

「平成26年度読みのアセスメント、指導教材（MIM）研修会

1月23日開催

講師 岡本尚美先生、齊木典子先生

「まなびの教室拡大連絡会」 9月29日開催

ディスカッションって？ 通常学級で使える楽しい教材紹介

琴浦町の取組 3 理解・啓発

平成27年度町内教職員に対する特別支援教育に関する研修会

「読みのアセスメント、指導教材（MIM）研修会」 7月3日開催

講師 中村正樹先生、齊木典子先生

「感覚統合の視点から考える子どもの支援」 8月11日開催

講師 来間寿史先生（NPO法人陽なた 作業療法士）

「コーピング～子どもの心に寄り添うコミュニケーション」

講師 引田 薫先生

東伯中学校の職員研修も兼ねて 10月6日開催

「就労に向けて身につけたい力～琴の浦高等特別支援学校の取組から」

講師 山本由香先生：町教研特別支援教育部会研修 8月3日

琴浦町の取組 4 保小連携、小中連携

▶ 特別支援教育主任会：情報共有

・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画、自立活動の指導計画

・ 特別支援教育資料のファイル配布

・ 特別支援教育主任研修会：情報交換、教材紹介等

▶ 引継ぎ方法の確認、引継ぎシートの改訂

・ 支援レベルをもとに引継ぎ方法を確認→ミニル化

・ 移行支援会議の充実

▶ 保育園訪問の実施と関係課との連携して随時

・ 4歳児訪問：就学にむけて 5歳児訪問：入学にむけて

▶ 先進地視察研修 NPO法人陽なたへ

琴浦町の取組 5 つながり作り

▶ コーディネーター、LD等専門員、通級指導教室担当

等の定期的な連絡会の開催

▶ 学校とコーディネーター、LD等専門員、関係機関とのつながり

▶ 保育園と関係課、関係機関とのつながり

▶ 校長会、園長会での情報共有、学校や保育園の先生方とのつながり

▶ 特別支援教育主任会とのつながり

▶ 行政各関係課とのつながり

▶ 保護者とのつながり



特別教育支援コーディネーターとなって

昨年度の成果

これまでの経験を生かした活動

- ▶ 通級指導教室（まなびの教室）担当としての経験
- ▶ 町内小学校に勤務をしていた経験

- ▶ 特別支援教育活動コーディネーターによる定期的な相談、継続した支援
- ▶ 特別支援教育活動コーディネーター、関係者が連携した学校保育園訪問の実施（保育園4歳児、5歳児訪問等）
- ▶ 学校のニーズをもとにした研修会の開催、保小中連携体制に関わる情報提供
- ▶ 琴浦町の特別支援教育マップ、行政関係課連携学習圏の作成

課題

～子どもたちの明るい将来をめざして

- ▶ 特別支援教育活動コーディネーターによる訪問・相談活動の継続
- ▶ 保護者への理解啓発に関わる研修会や保護者への支援に関わる相談の実施
- ▶ 早期からの支援、相談に関わる体制の充実
- ▶ 思春期における支援方法や対応（学校、保護者との連携、相談）
- ▶ 特別支援教育連携協議会による、教職員研修、保護者支援の充実
- ▶ 作成した個別の教育支援計画、指導計画等の活用を図るための支援・啓発、保・小・中へのスムーズな移行、引継ぎの充実

おわりに ～今年度の取組の中で～

- ▶ 関係機関（倉養、LD等専門員、スクールカウンセラー、SSWR、まなび等）への接続のコーディネート
- ▶ 他校の実践の情報提供
- ▶ 関係者（チーム）での協議、相談、

来年度への継続、充実を図る

琴浦町 行政機関の連携事業（子どもの支援関係）

町民生活課(子育て応接室)④

52-1703

保育園・こども園・児童クラブ

：担当
相談紹介、斡旋（LD等専門員、工
一ル、ペアレントメンター、医療、
療育機関、養護学校等）
要保護児童対策地域協議会
職員研修、園内研修

乳幼児健診

- ・ 保育園・こども園との情報共有 ④⑤
 - ・ 健診後のフォロー
経過観察→医療への受診 ④⑤
 - ・ 健診の事前カンファレンス ④⑤
 - ・ 5歳児健診 ④⑤⑥
- 4歳児担当保育士への説明、教育の話(保護者)

保育園4歳児訪問

就学に向けての相談→移行支援の準備や保育園との連携 ④⑤
各療育機関との接続 ④ 5歳児健診後の実態把握、確認 ⑤

教育総務課 ④

52-1160

小学校・中学校関係：担当
特別支援教育関係各研修会
通級指導教室（まなびの教室）
学校訪問、相談（コーディネータ）
就学支援、入級手続き
支援会議への参加等支援や相談
就学児健診

健康対策課 ④

52-1705

母子保健事業：担当
乳幼児健診 1歳半・3歳・5歳児健診
保健師の指導、医師の診察、子育て相談等）
訪問・相談事業
特別医療費助成事業
遊びの教室

教育総務課 ④

52-1160

小学校・中学校関係：担当
特別支援教育関係各研修会
通級指導教室（まなびの教室）
学校訪問、相談（コーディネータ）
就学支援、入級手続き
支援会議への参加等支援や相談
就学児健診

工一ル巡回相談

各保育園へ年1回実施 ④ 福祉サービスの利用 ⑤
乳幼児健診のカルテを活用して情報共有 ⑤

保護者啓発の推進

保護者研修会への参画・育児相談
ワークショップ、発達障がいハンドブックの活用 ⑤
ペアレントトレーニング ④ アイサポートキッズ
健診時の育児相談（臨床心理士）⑤

各研修会・講演会の情報発信、
情報共有（教育・福祉関係、保育士研修）

福祉課 ④

52-1706

乳幼児・児童生徒・成人：担当
福祉サービス申請
児童発達支援（未就学児のデイサービス）
放課後等デイサービス（学童児の放課後・
長期休業中デイサービス）
短期入所・日中一時支援（一時預かり）
障がい者手帳 申請
生活保護 申請

琴浦町特別支援教育MAP

特別支援教育に関わり、園や学校の相談活動・連携等にお使いください



まずは
お電話を

行政機関

- 琴浦町** ★相談活動や支援等★
- ・教育委員会：児童生徒対象 52-1160
 - ・町民生活課：乳幼児対象 52-1703
 - ・健康対策課：乳幼児健診・子育て相談 52-1705
 - ・福祉課：障がい者手帳、福祉サービスの申請等 52-1706
- 中部総合事務所**
- ・中部教育局：LDホットライン 23-9250

就労機関

- ★障がいのある方の職業相談活動等★
- ・ハローワーク倉吉 23-8609
 - ・障害者就業・生活支援センターくらよし 23-8448

通級指導教室

- ★保(こども園)・小中学校における支援等★
- ・まなびの教室(LD等) 八橋小学校 52-2950
 - 東伯中学校 52-2326
 - ・ことばの教室(言語障がい) 大衆小学校 37-2041
 - ・レインボー教室(聴覚障がい等) 倉吉養護学校 28-3500
 - ・ひまわり分校(鳥取養学校) (0859)23-2810

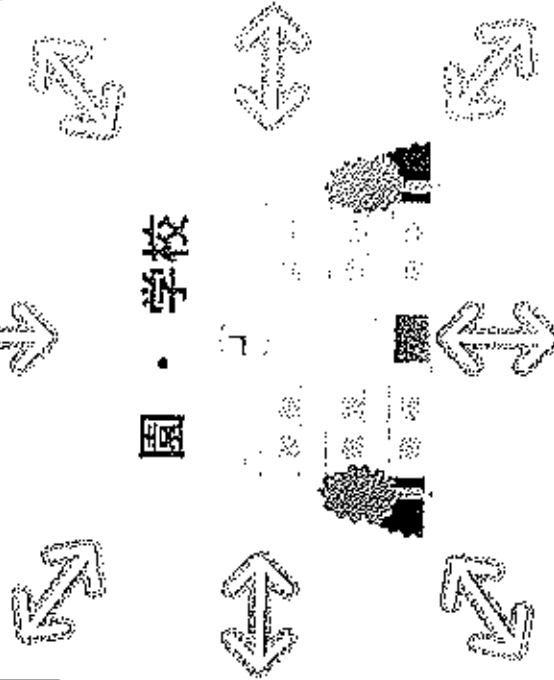
専門員

- ★発達障がいに関する相談活動等★
- ・LD等専門員保・小・中対象080-1937-2210
 - ・スクールカウンセラー-東伯中学校 52-2326 (小・中対象) 赤碓中学校 55-0002
 - ・スクールソーシャルワーカー-東伯中学校52-2326

特別支援学校

- ★特別支援教育に関する相談活動等★
- ・倉吉養護学校：支援部 28-3500
 - ・琴の浦高等特別支援学校 55-6477
 - ・特別支援学校の地域支援部(盲学校、聾学校等)
 - ・その他、障がい別に特別支援学校があります。

園・学校



療育・福祉サービス

- 相談も
できます
- ・琴浦町社会福祉協議会：日中一時支援 55-1124
 - ・鳥取県立中部療育園「ぐんぐんばあ」：乳幼児対象22-7191
 - ・鳥取県立首成学園「わいわいランド」：幼児対象 22-7188
 - ・倉吉こどもの発達支援センター：幼児児童対象48-1605

医療機関

- 相談機関
- ・鳥取県発達障がい児支援センター「E-ル」：乳幼児～大人 22-7208
 - ・鳥取県立倉吉児童相談所：18歳未満対象 23-1141
 - ・児童家庭支援センター「くわの突」 24-6306
 - ・発達相談会(教育センター) (0857)28-2322



自治の力を育む取り組み

米子市立福米中学校

1

69

これまでの福米中学校の課題

稀薄で、狭い人間関係

トラブル 不安

傍観者

福米中の概要

平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度						
学級数	14学級 +支援学級2	15学級 +支援学級2	16学級 +支援学級3	16学級 +支援学級3	17学級 +支援学級3	17学級 +支援学級2
生徒数	464人	486人	514人	520人	549人	540人

2

課題解決に向けて

自治の力を育む教育



生徒会活動の活発化

4

自治の力を育てる取り組み

5

生徒会目標

心から安心して

誰もが楽しめる学校を

みんなで作ろう

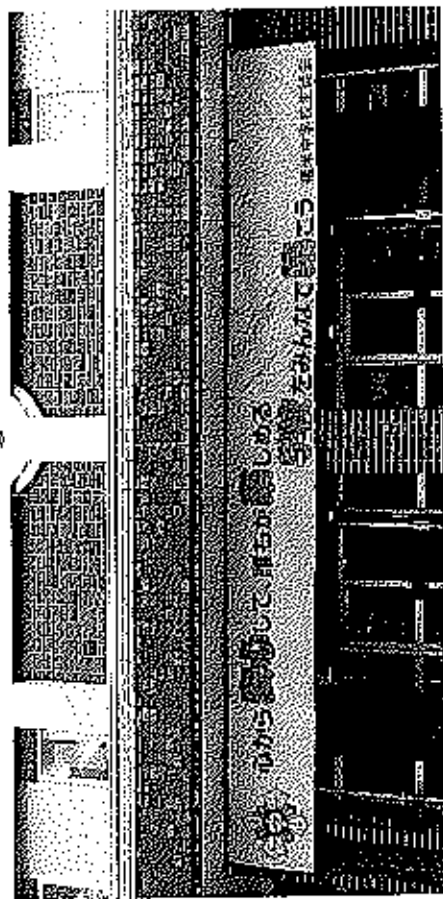
7

校長先生今年の一文字



6

生徒会目標



8

学級目標づくり



生徒会目標

「心から安心して誰もが楽しめる学校を

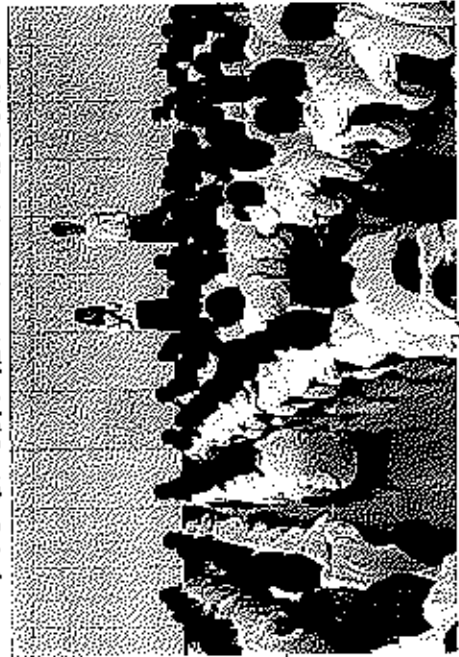
みんなが楽しく」ための取り組み

- 学級目標の振り返り
- 生徒会目標の振り返り 班→学級
- 自分と周りとの関わり →学年(学年生徒会) →全校

生徒会目標

「心から安心して誰もが楽しめる学校を

みんなが楽しく」ための全校集会



生徒会目標

「心から安心して誰もが楽しめる学校を

みんなが楽しく」ための全校集会

3年生の発表

「周りを気遣うこと、いじめに対して見
て見ぬふりをしないこと、そして互い
を理解しあうことによって、誰もが安
心できる環境をつくっていくことがで
きるのではないか。」

生徒会目標

「心から安心して誰もが楽しめる学校を

みんなで作る」ための全校集会

執行部(2年生)の思い

「3年生の新校舎は温かくていいだけで、楽しくなる雰囲気があり、尊敬している。安心して生活できる学校を築いていくのは自分たち自身だということに気づいた。」

13

72

あいさつ運動の取り組み

- 毎月3日間、8:00～、正門前
- 学年ごと
- 各クラス中央委員と執行部とボランティアによる
- 「繋がりう あいさつの輪 拡大中」

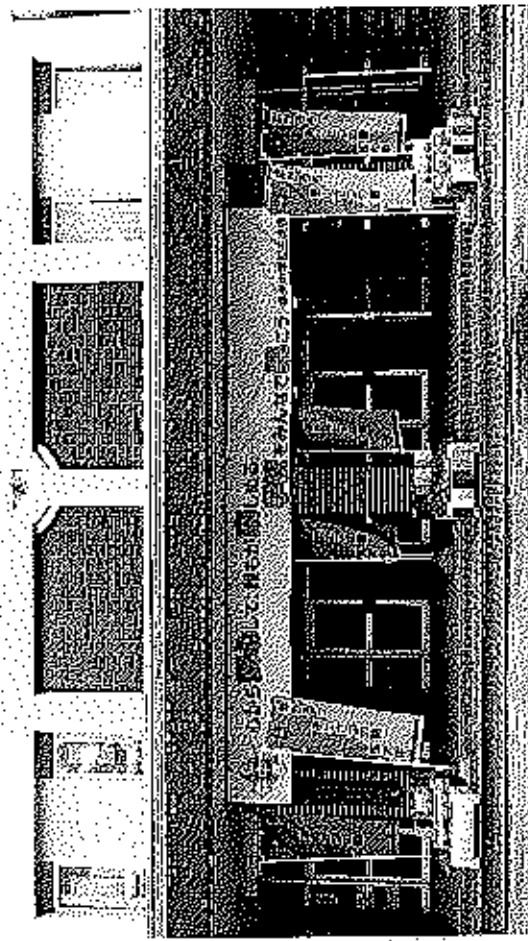
14

あいさつ運動の取り組み



15

あいさつ運動の取り組み



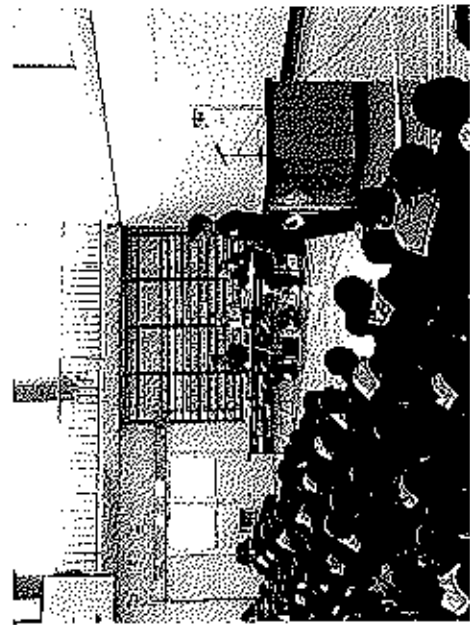
16

意見発表

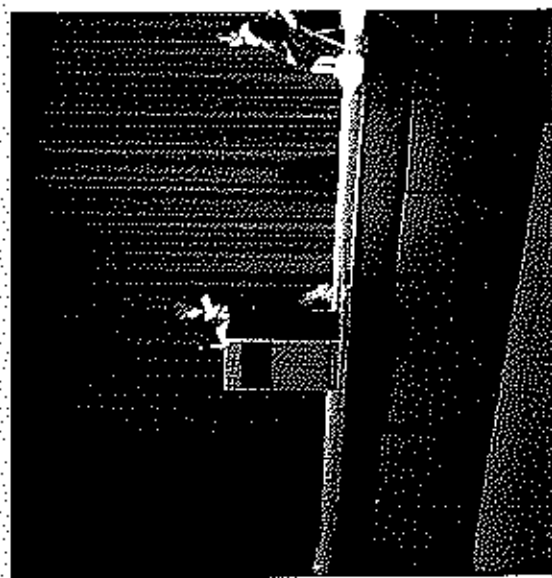


17

「心から安心して誰もが楽しめる
ネットのルール」



19



18

「心から安心して誰もが楽しめる
福米中学校」になってきている？

校内での雰囲気や関わりは良くなってきたが、
学校外、家に帰ってからのネットでの
トラブルで課題が学校にきている
生徒がいる。

自分たちで福米中独自の
ネットのルールをつくる！

20

「ネットのルールを

自分たちでつくる」

各字級で意見を出し合う



「ネットのルールを

自分たちでつくる」

② 全校生徒集会での意見交換



「ネットのルールを

自分たちでつくる」

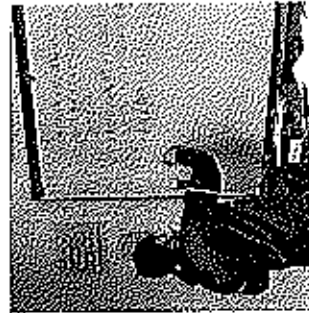
各字級で意見を出し合う



「ネットのルールを

自分たちでつくる」

③ 全校の意見を取り入れたルール案を決定



「ネットのルールを

自分たちでつくる」

各字級で意見を出し合う



SNSトラブル防げ

本市浦木古生徳がルール作り

米子市浦木古生徳の
 部中(浦木徳徳部)が、
 部員や教員、生徒など
 がSNS(ソーシャル・ネ
 ット)やLINE、メール
 などを利用し、トラブル
 防止のため、8日
 は米子市の浦木古生
 徳部員や教員、生徒
 などが参加し、SNS
 のトラブル防止策を
 話し合った。

米子市浦木古生徳
 の部員や教員、生徒
 などが参加し、SNS
 のトラブル防止策を
 話し合った。



クラスごとの話し合いやルールを決定する
 代表者=11日、米子市浦木古生徳部員

◆米子市浦木古生徳部
 員や教員、生徒など
 が参加し、SNSの
 トラブル防止策を
 話し合った。

で決まる。生徒会
 の三國孝徳部長(左)は「SNSの
 トラブル防止策を
 話し合った。」と
 話した。

心から安心して 誰もが楽しめる ネットのルール 七ヶ条

自分以外の個人情報や
写真・動画
などを利用するときは
必ず本人に許可をとる

臨時生徒総会

誰か目撃したか
誰か目撃しなかったか
不安な気持ち
なるものは
見るといい
ハッキリと
とせよ

④ 全校にルール案を発表→承認をうける

悪口などの顔を見て
言えないことや
人が不安になるようなことは
書かない、載せない

みんなが
楽しめることだけ
タイムラインに
のせる

返信を期待しない

夜中のラインやメール
が迷惑な人は
通知OFF

悩んだら
一人で抱えず
リアルの世界
で相談する

誰か(自分も含めた)が
不安な気持ちに
なるようなことを
見たみんなが
ハッキリ「ダメ」と言おう

ネットのルール 七ヶ条

教室掲示

生徒会だより

学校だより

新入生説明会

学校

家庭

校外へも発信

ネットのルールに関するアンケート

ルールを意識できている

ネットでの悪口がなくなった

また悪口を書く人がいる

日常での自治の取り組み

○委員会活動の充実

・チャイム席強化運動

・残飯減らそうキャンペーン

日常での自治の取り組み

○学年生徒会の充実

- ・週に1度の合同終わりの会
- ・昼食交流

37

小中一貫教育を通じて 自治力を育む取り組み

- ・小中合同あいさつ運動
- ・夏休みの交流(水泳・学習)
- ・リーダー研修会
- ・文化交流
- ・ボランティアサービス
- ・小学生の中学校への体験入学

78

39

全国いじめ問題子どもサミット

全国のリーダーとの交流



自分たちが進めてきたことが
全国でも認められる

自主的に活動することの追い風となっている

38

小中合同あいさつ運動の取り組み



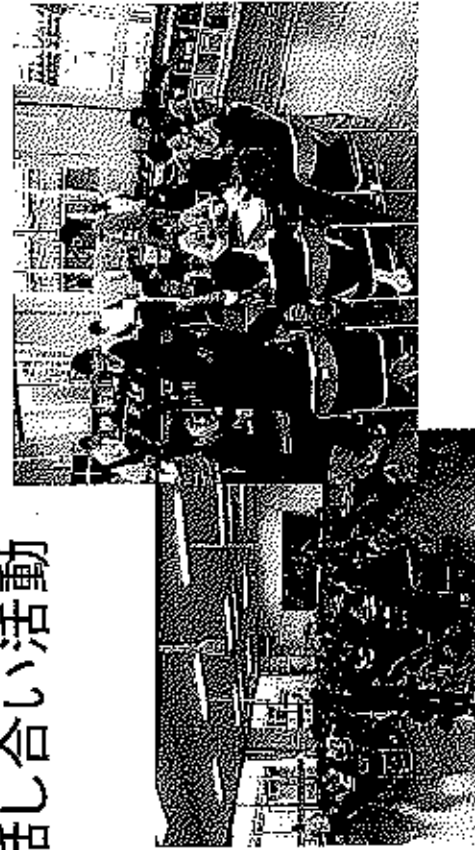
40

夏休みの小中一貫の取り組み



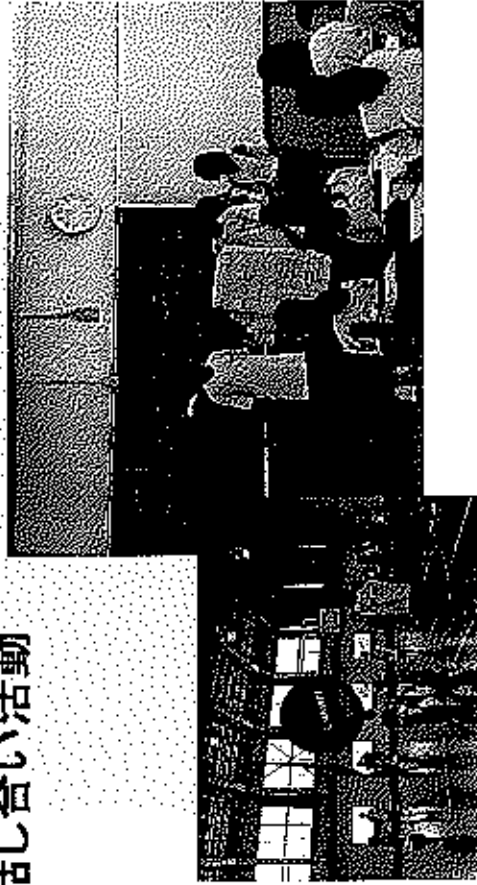
41

小中合同リーダー研修
福米中学校区
話し合い活動



43

小中合同リーダー研修
福米中学校区 小中学生の交流、
話し合い活動

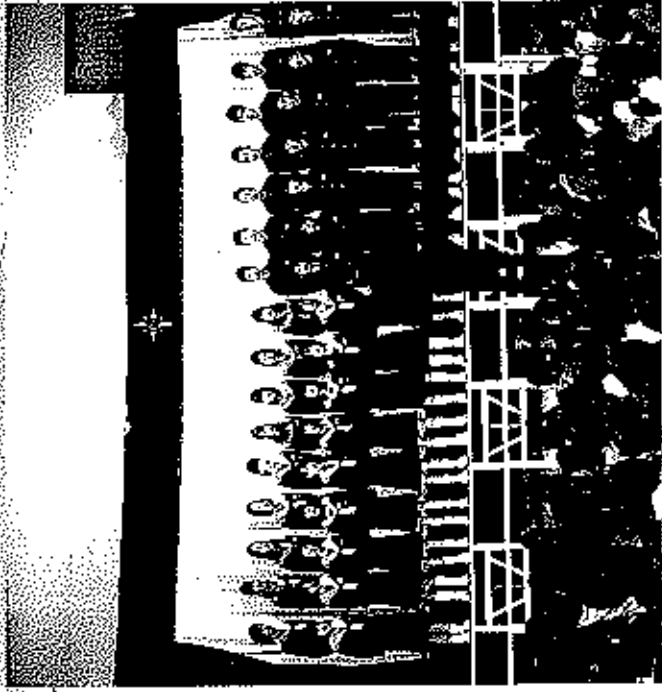


42

文化祭の小学校合唱



44



45

自治の力を育む取り組みの成果

大人からの押しつけではない



自主的に考える 自主的に行動する



自治の力の成長

80

47

小中合同VS活動 (小中合同ボランティアサービス活動)



46

成果

- ・生徒同士のトラブルの減少
- ・他者への気遣い
教育相談アンケート
- ・いじめの訴え→無し

48

成果

- ・欠席の生徒への気遣い、取り組み
- ・ボランティア参加→増

49

課題

- 適切な教員のサポート
- 話し合い時間の確保
- 保護者・地域への発信、啓発

考察

- 狭く希薄な人間関係から起こっていた諸問題・トラブルが、共通の目標を意識し、繋がっていくことで、子ども達の世界が広がってトラブルが減った。
- 自主的な活動が増えたことにより、自己有用感が高まり、次の活動への意欲と なっていった。
- 社会の形成者としてより良い社会を築こうとする資質の向上に繋がっている。

50

ご清聴ありがとうございました。

51

52

memo

